

証券コード 6768  
東京証券取引所 プライム上場

# 株式会社タムラ製作所

## 2022年3月期 決算概要

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT GOALS

2022年5月13日

**TAMURA**

Your One and Only Company

# 本日のご説明

1. 2022年3月期 決算概要
2. 2023年3月期 通期業績予想
3. 第13次中期経営計画
4. まとめ

【付録】参考資料



代表取締役社長  
**浅田 昌弘**

# 1. 2022年3月期 決算概要

# 損益計算書（要約）

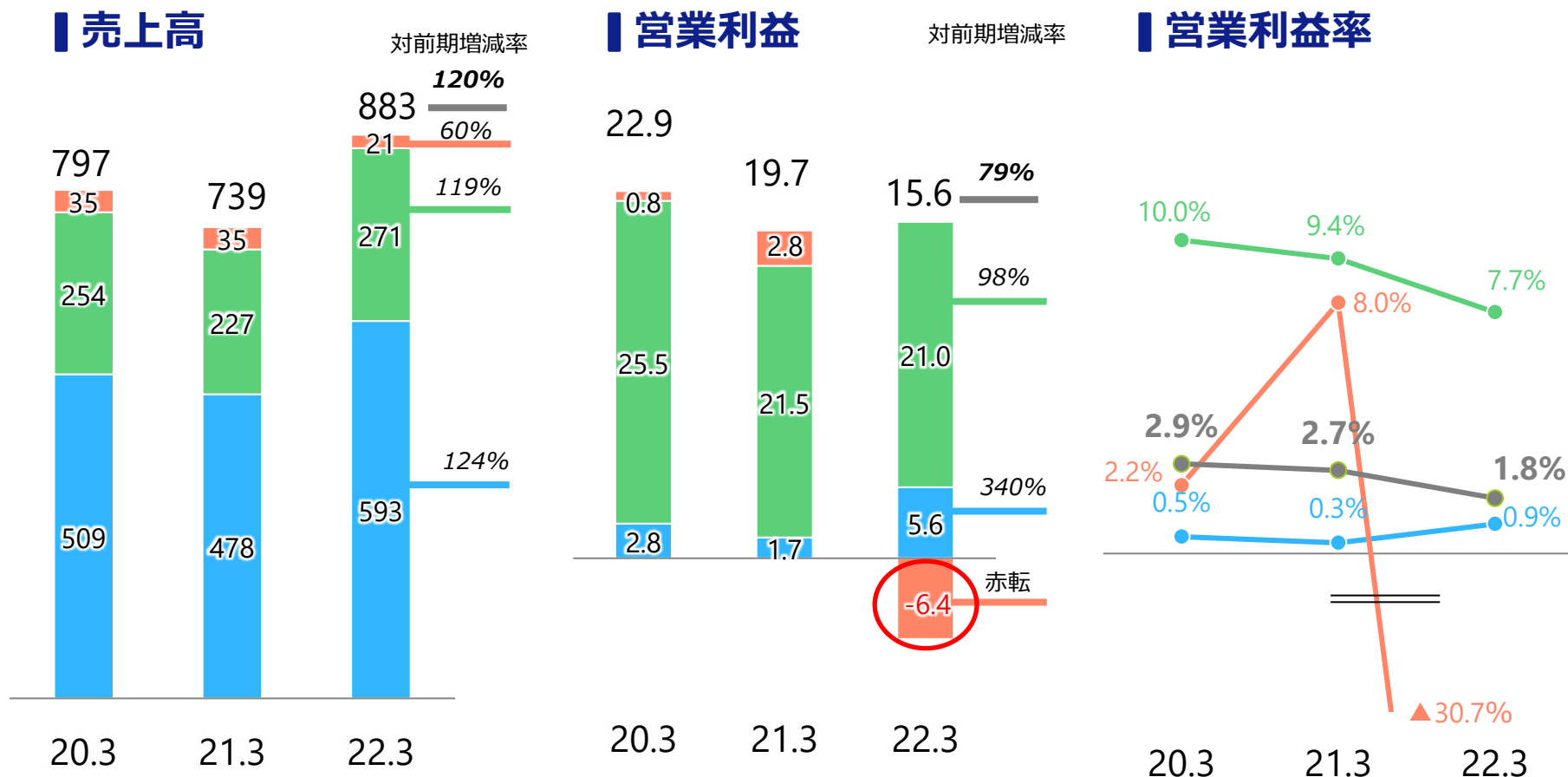
- ◆ 経済活動の回復とともに、産業機械や家電関連を中心に売上が伸長
- ◆ 銅・鉄・錫等の素材価格高騰が主力事業の電子部品・電子化学実装の両方に及び、前期比減益
- ◆ バングラデシュ工場の資産減損損失約5億円を計上したことなどにより、当期利益は赤転

[百万円]	2021.3期			2022.3期			2022.3期	
	実績	構成比	前期比	実績	構成比	前期比	2Q時 予想	構成比
<b>売上高</b>	73,906	100.0%	▲7.2%	<b>88,328</b>	100.0%	+19.5%	88,000	100.0%
売上原価	52,685	71.3%	▲7.9%	<b>65,996</b>	74.7%	+25.3%	-	-
販管費	19,251	26.0%	▲4.6%	<b>20,767</b>	23.5%	+7.9%	-	-
<b>営業利益</b>	1,969	2.7%	▲14.0%	<b>1,564</b>	1.8%	▲20.5%	2,200	2.5%
<b>経常利益</b>	2,384	3.2%	▲5.0%	<b>2,001</b>	2.3%	▲16.1%	2,350	2.7%
親会社株主に帰属する <b>当期純利益</b>	542	0.7%	▲47.0%	<b>▲84</b>	-	赤転	1,100	1.3%
為替 (円/米ドル)	期中平均	105.43	▲2.99	111.16	+5.73	109.00		
	期末	110.71	+1.88	122.39	+11.68	109.00		
1株当り配当	8.00円		▲2.00円	10.00円	+2.00円	10.00円		
配当性向	121.1%		+41.0pt	-	-	75.2%		
ROE	1.2%		▲1.0pt	▲0.2%	▲1.4pt	2.2%		

# 事業部門別売上高・損益

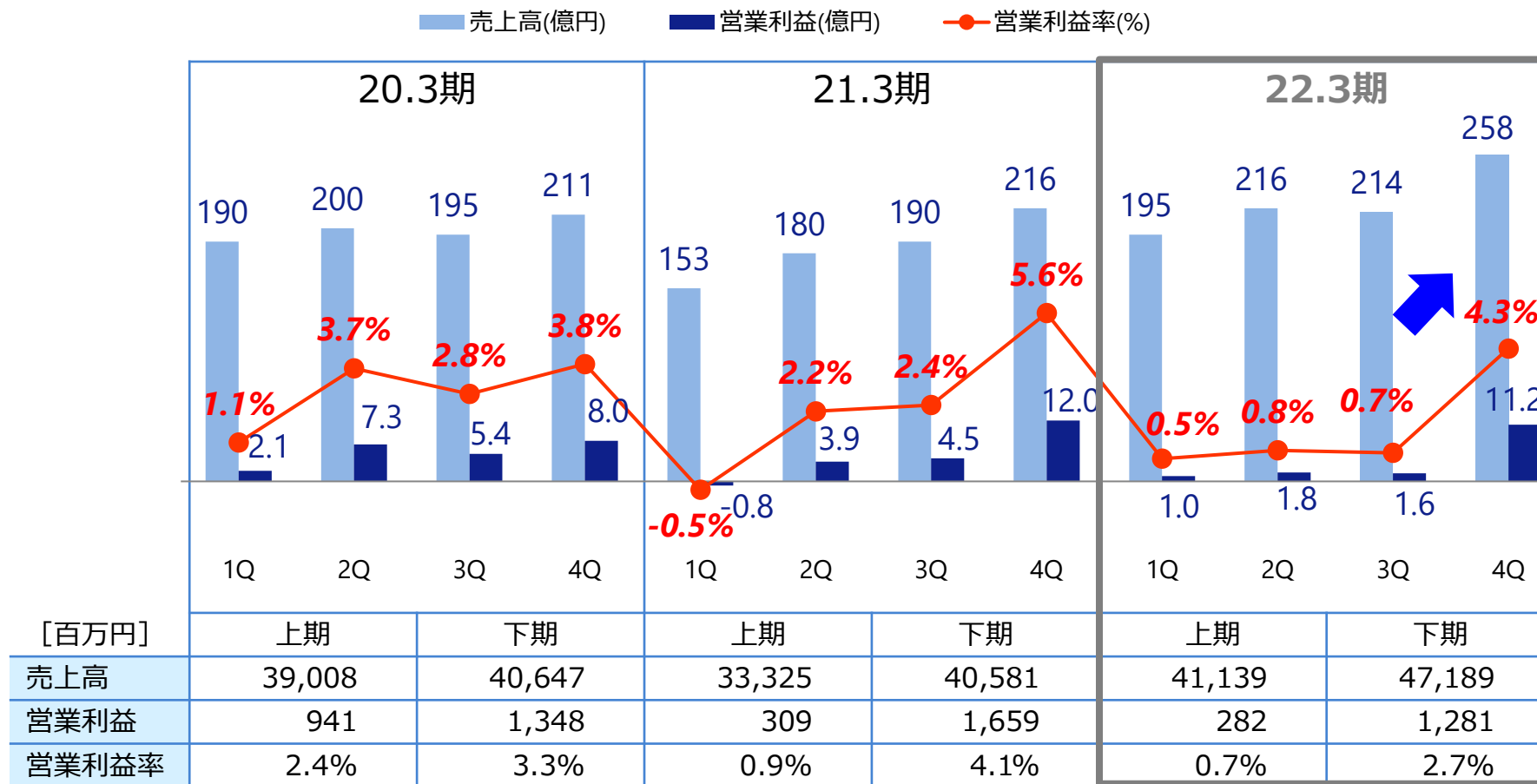
- ◆ 価格転嫁等により電子部品事業増収・増益。電子化学実装事業は低位ながら安定的に推移
- ◆ 半導体調達困難の影響を受けた情報機器事業が大きく悪化

■ 電子部品関連事業 ■ 電子化学実装関連事業 ■ 情報機器関連事業 ■ 全社 [億円]



# 四半期別の売上高・損益

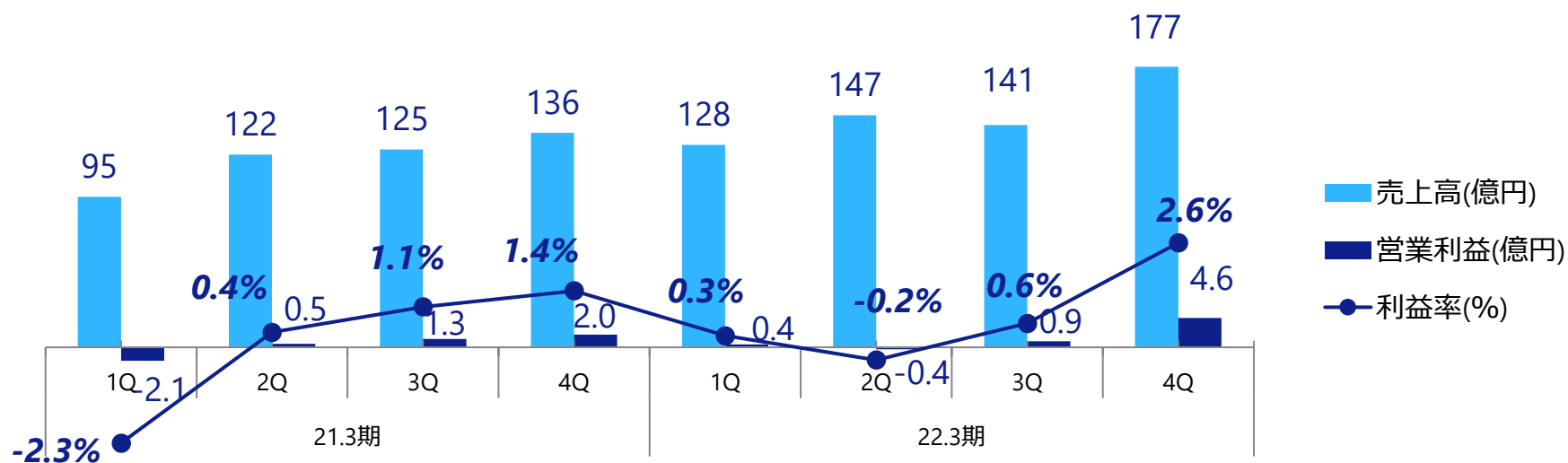
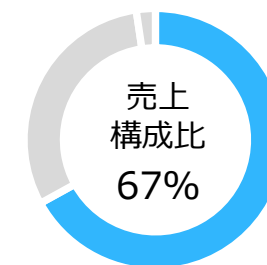
- ◆ 家電や産業機械の好調に加えて、期の後半では価格転嫁により売上増加
- ◆ 営業利益は金属等各種部材価格の高騰の影響を受けるが、4Qから価格転嫁もあり改善傾向へ



# 【事業部門別】電子部品関連事業の実績①

- ◆ 電動工具用チャージャ、エアコン用リアクタ、産業機械向けトランス・リアクタは年間を通じて堅調
- ◆ 車載用リアクタは顧客の減産に伴い売上減少。自動販売機向けLED製品は市場環境が厳しく低調
- ◆ 期の後半で、銅・鉄の相場連動の価格改定が追い付いてきたことにより利益は回復傾向

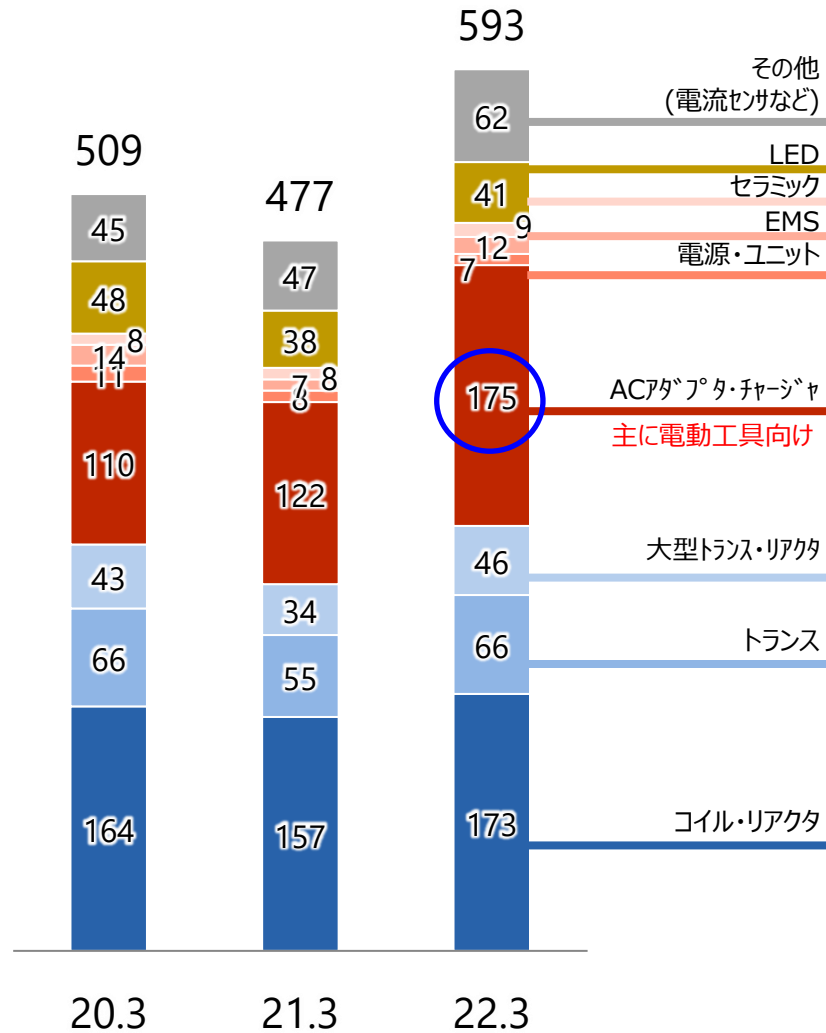
[百万円]	21.3期		22.3期		22.3期 2Q時予想
	実績	前期比	実績	前期比	
売上高	47,751	▲6.1%	<b>59,258</b>	+24.1%	58,000
営業利益	165	▲40.0%	<b>562</b>	+240.5%	1,100
営業利益率	0.3%	▲0.2pt	<b>0.9%</b>	+0.6pt	1.9%



# 【事業部門別】電子部品関連事業の実績②

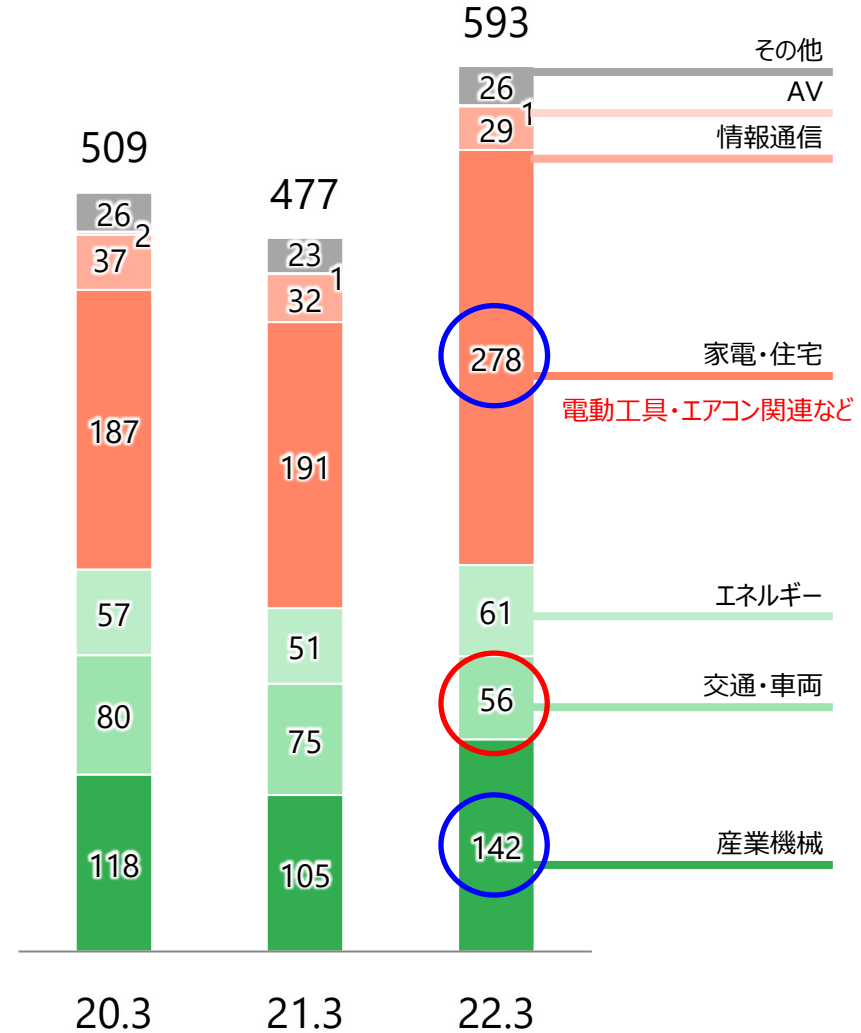
## 製品別売上高

[億円]



## 市場別売上高

[億円]

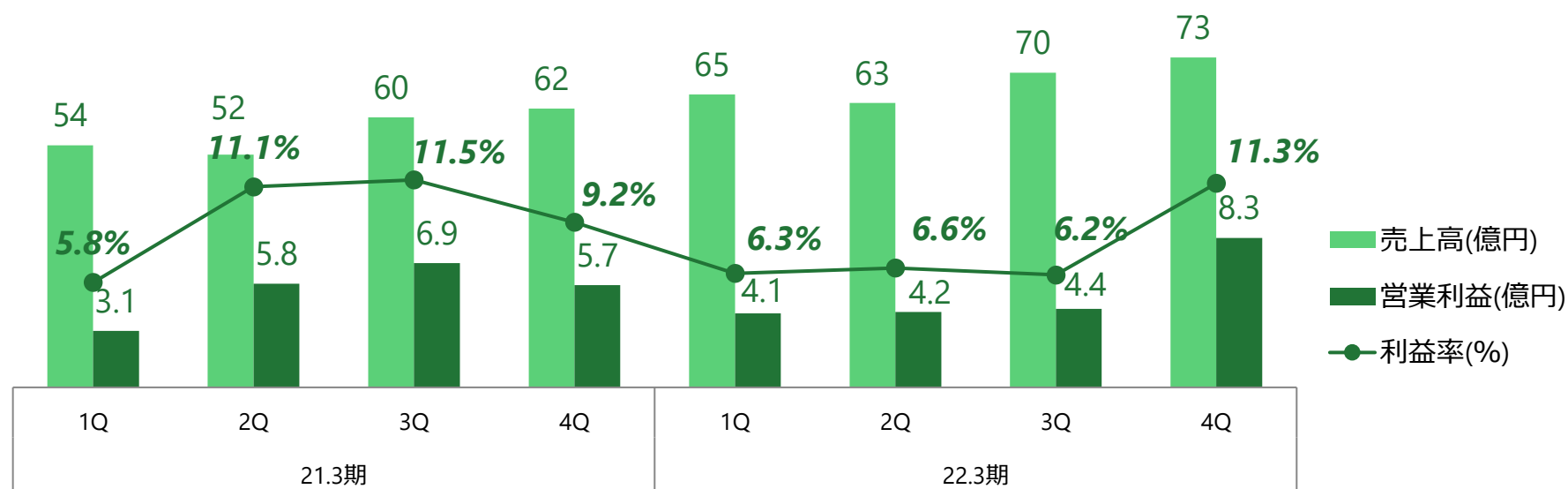
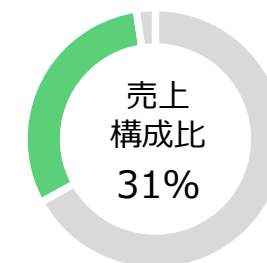




# 【事業部門別】電子化学実装関連事業の実績①

- ◆ エレクトロニクス市場の生産活動の回復により、販売は堅調。実装装置も車載向けを中心に回復基調
- ◆ ソルダーペーストの主材料である錫価格の高騰により営業利益は前年を下回る

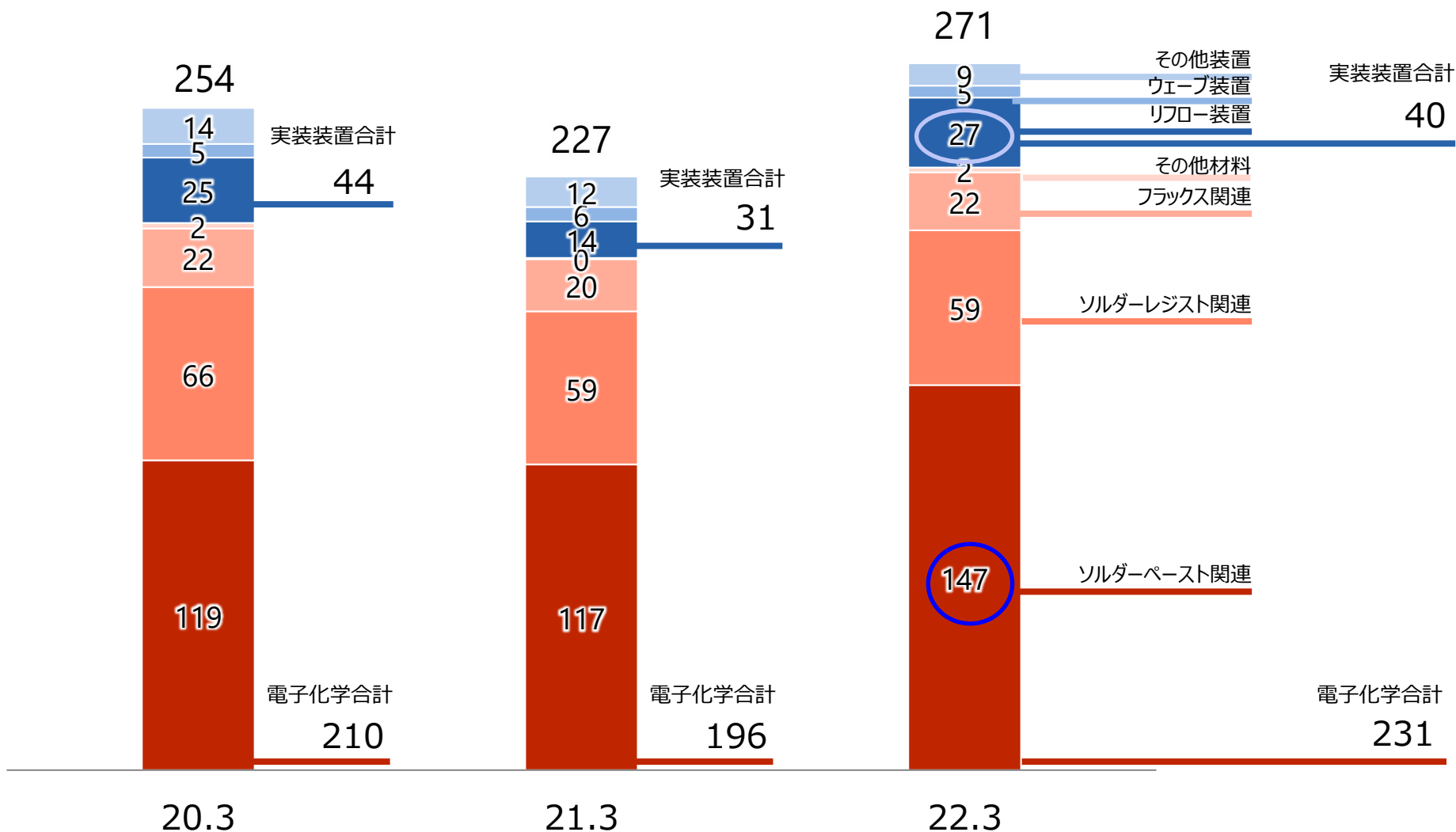
[百万円]	21.3期		22.3期		22.3期 2Q時予想
	実績	前期比	実績	前期比	
売上高	22,743	▲10.6%	<b>27,131</b>	+19.3%	27,200
営業利益	2,148	▲15.8%	<b>2,098</b>	▲2.3%	2,000
営業利益率	9.4%	▲0.6pt	<b>7.7%</b>	▲1.7pt	7.4%



# 【事業部門別】電子化学実装関連事業の実績②

## 製品別 売上高

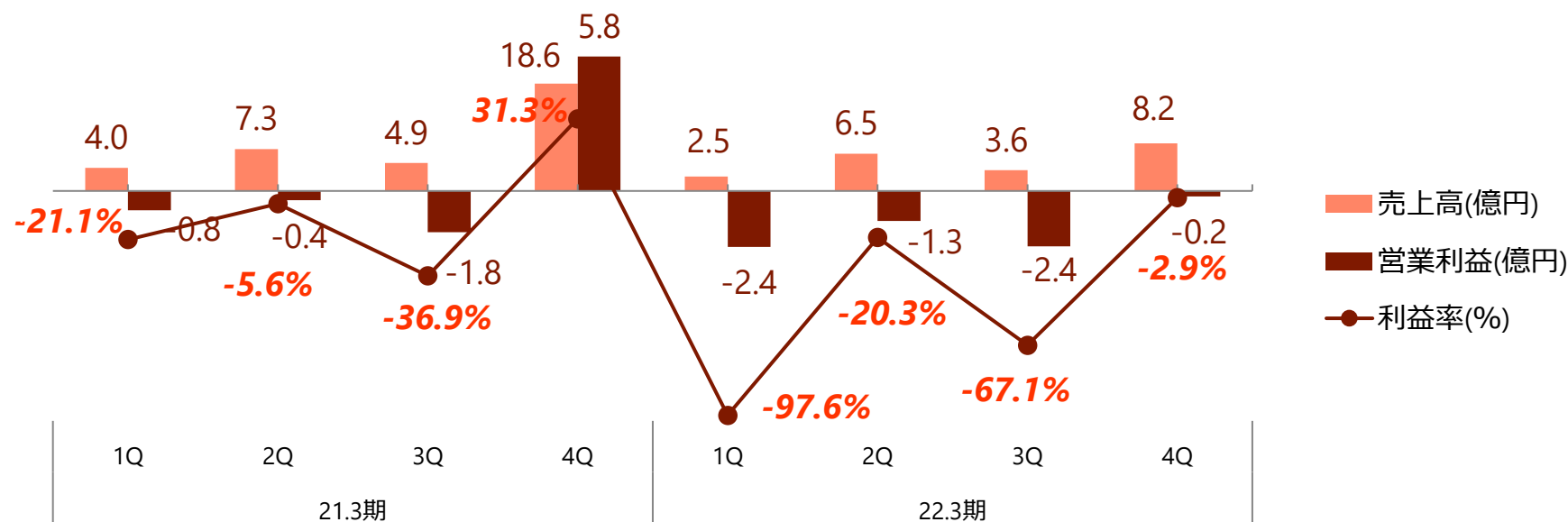
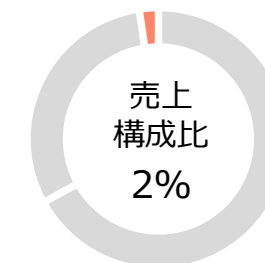
[億円]



# 【事業部門別】情報機器関連事業の実績

- ◆ 放送機器のネットワーク化対応をはじめとする将来の技術変化を見据えた新製品開発を推進
- ◆ 半導体等の部材調達難により、予定していた新製品の納品が延期となり営業赤字化

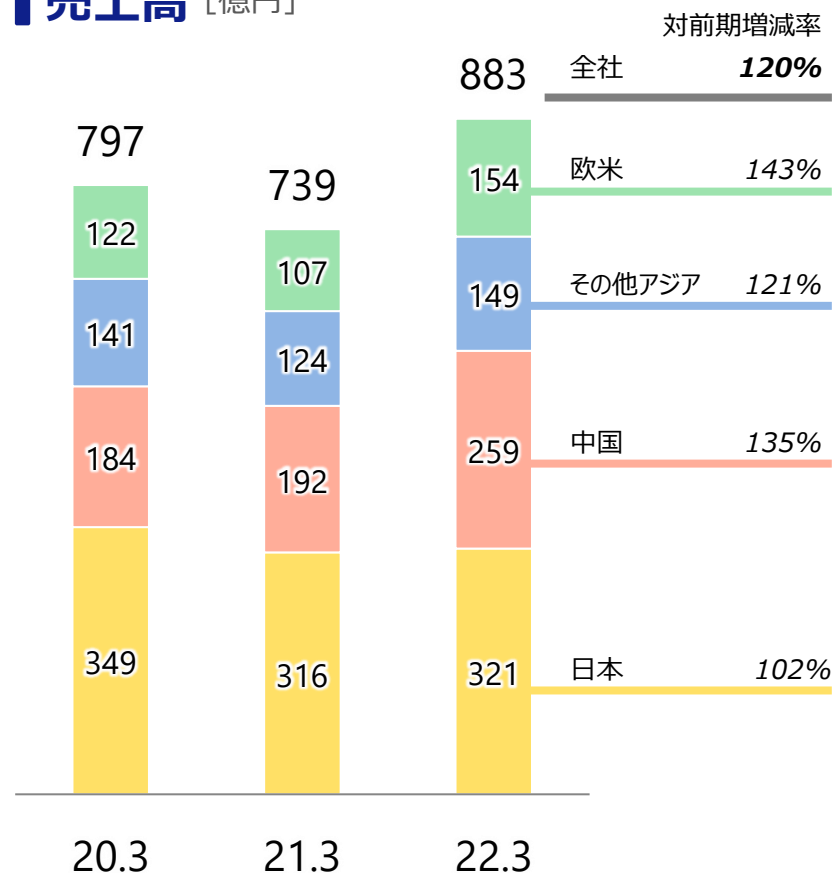
[百万円]	21.3期		22.3期		22.3期 2Q時予想
	実績	前期比	実績	前期比	
売上高	3,474	▲0.7%	<b>2,079</b>	▲40.2%	2,800
営業利益	279	+264.2%	<b>▲638</b>	赤転	▲350
営業利益率	8.0%	+5.8pt	<b>▲30.7%</b>	▲38.7pt	▲12.5%



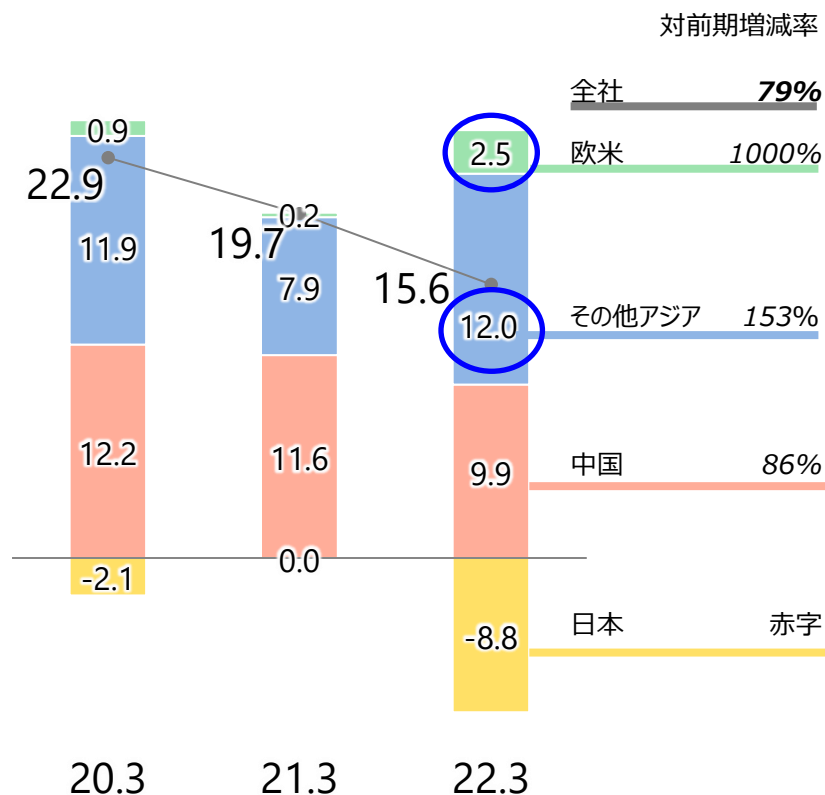
# 地域別の売上高・損益

- ◆ 日本は産業機械は好調ながら、放送機器や自動販売機関連が厳しく赤字。中国は素材価格高騰の影響で減益
- ◆ その他アジア（韓国およびASEANなど）、欧米は前四半期のコロナ禍による停滞から回復

## 売上高 [億円]



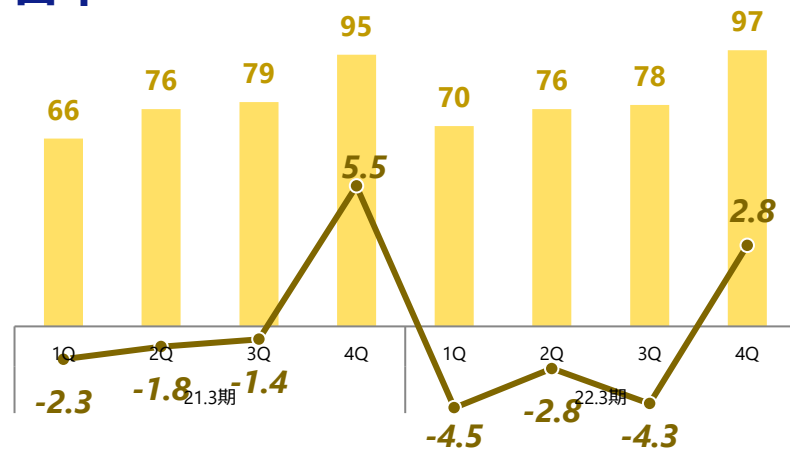
## 営業利益 [億円]



# 地域別の売上高・損益（推移）

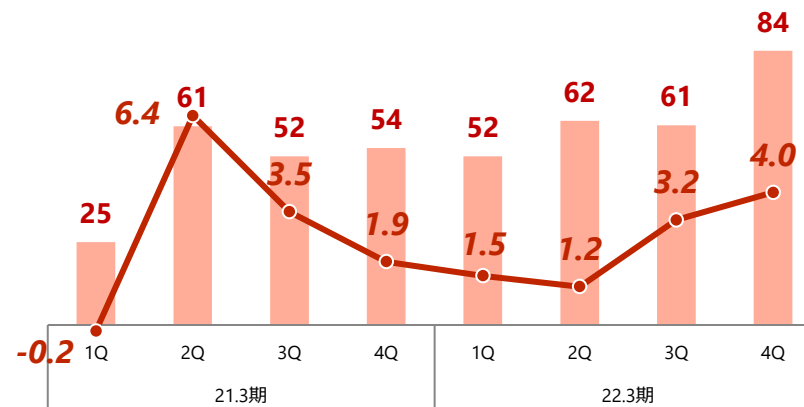
■ 売上高(億円)    ● 営業利益(億円)

## 日本

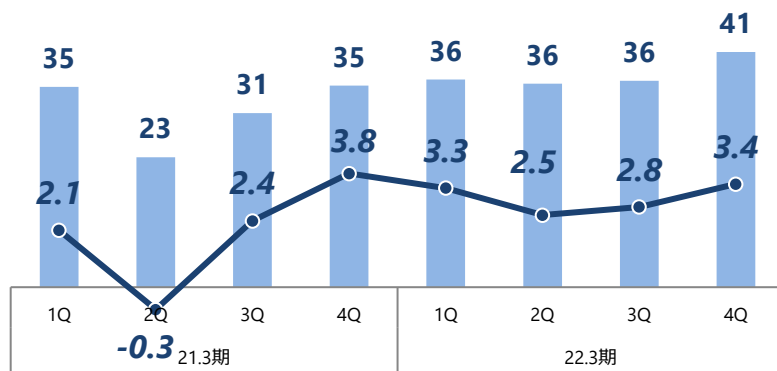


注: 連結消去（主に全社未来開発費）を日本に含めて表示しています。

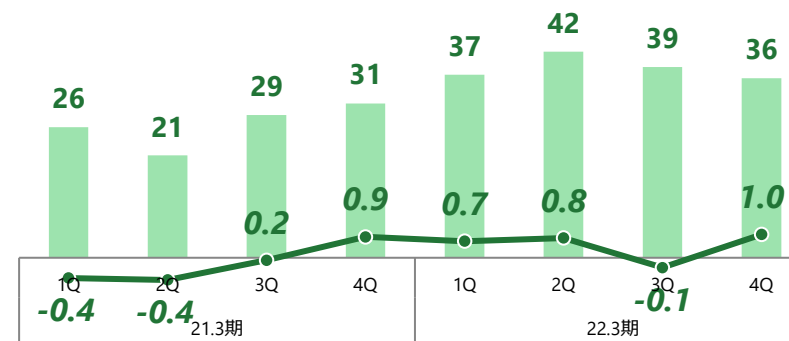
## 中国



## その他アジア



## 欧米

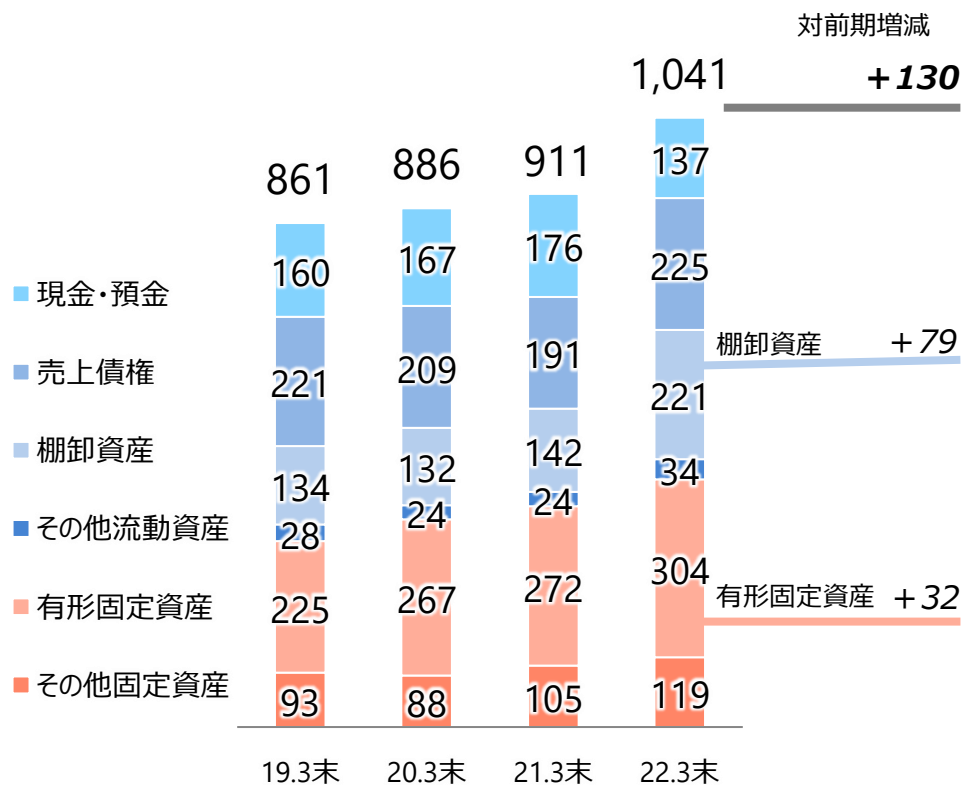


# 資産・負債・純資産

- ◆ 受注拡大および部材供給不足への対応で棚卸資産が増加
- ◆ 車載新工場建設や中国拠点統廃合等にもなう有形固定資産増もあり、有利子負債が増加

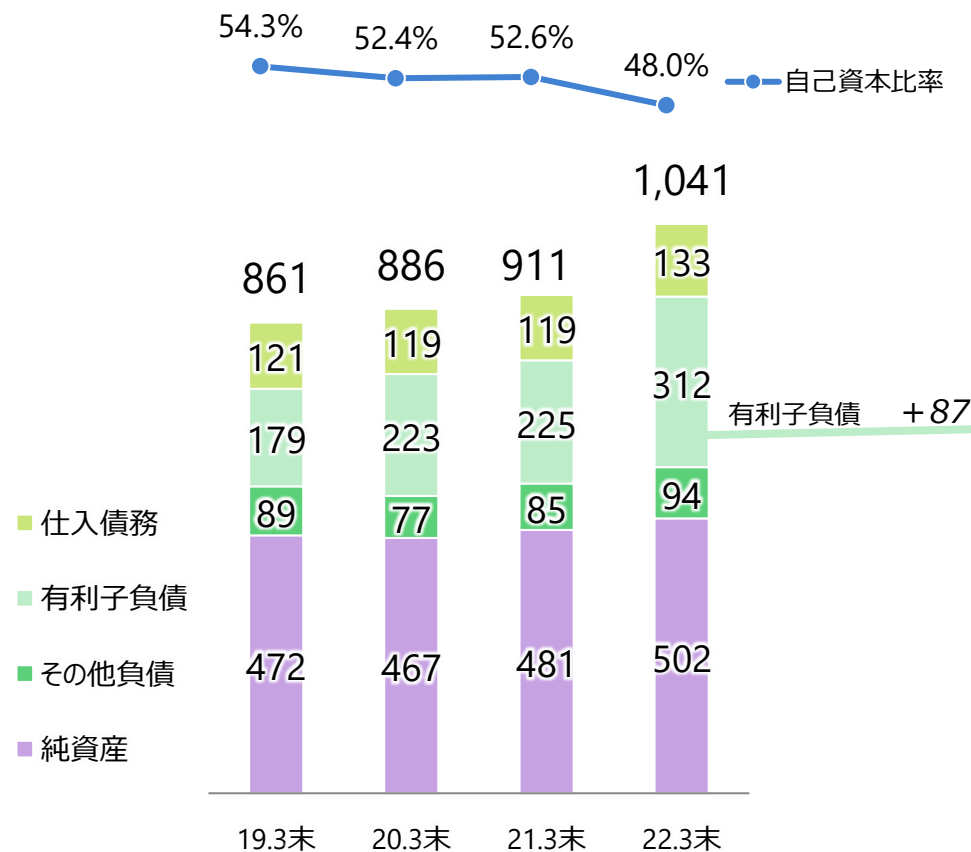
## 資産

[億円]



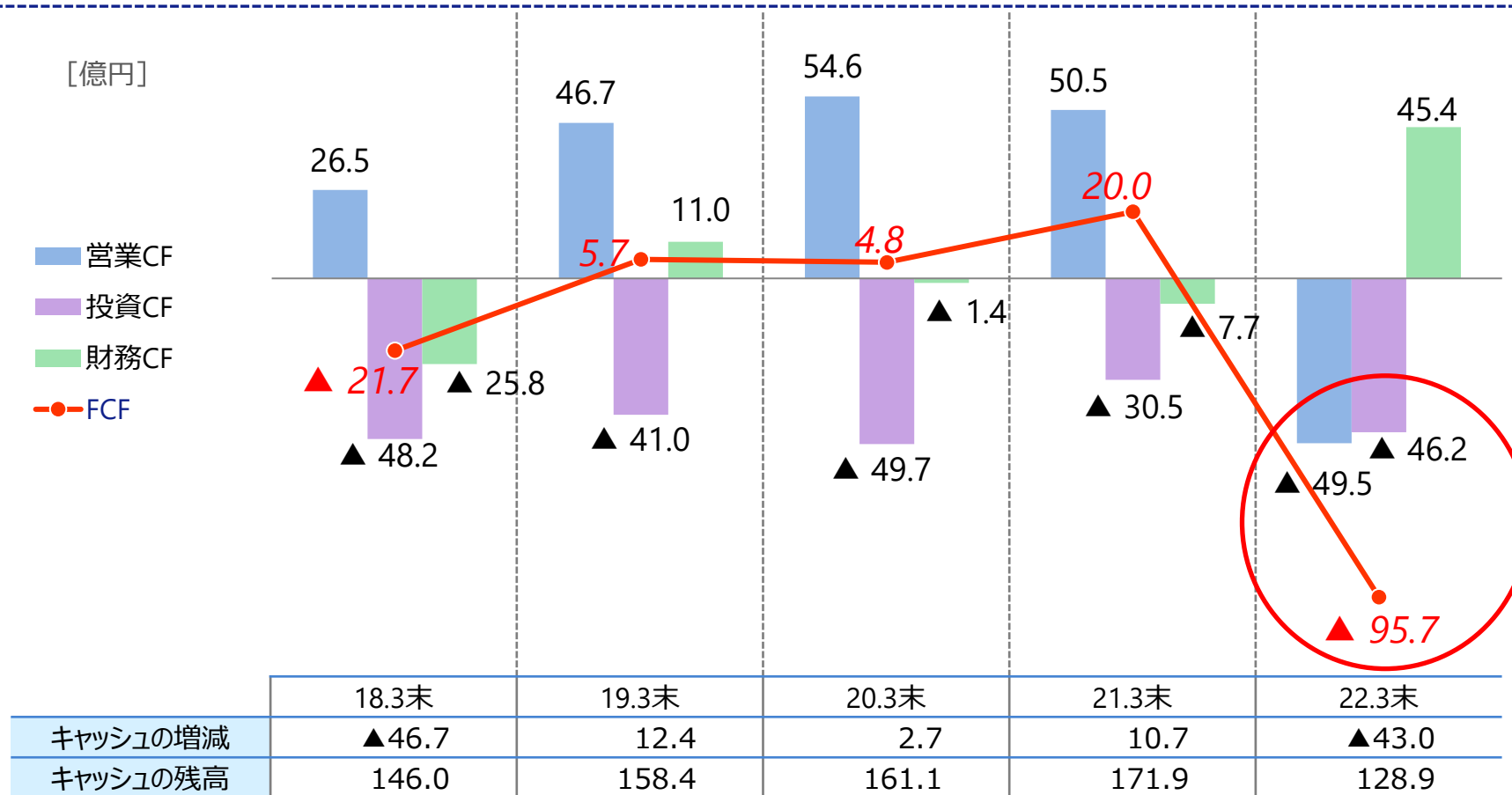
## 負債・純資産

[億円]



# キャッシュ・フロー

- ◆ 営業CF：税金等調整前当期純利益が減少、電子部品関連事業を中心に棚卸資産が増加
- ◆ 投資CF：中国工場立ち上げ・移転に伴う投資発生、ノベル社への出資実行
- ◆ 財務CF：中国拠点の投資に応じた借入金の増加



---

## 2. 2023年3月期 通期業績予想



# 2023年3月期 通期業績予想

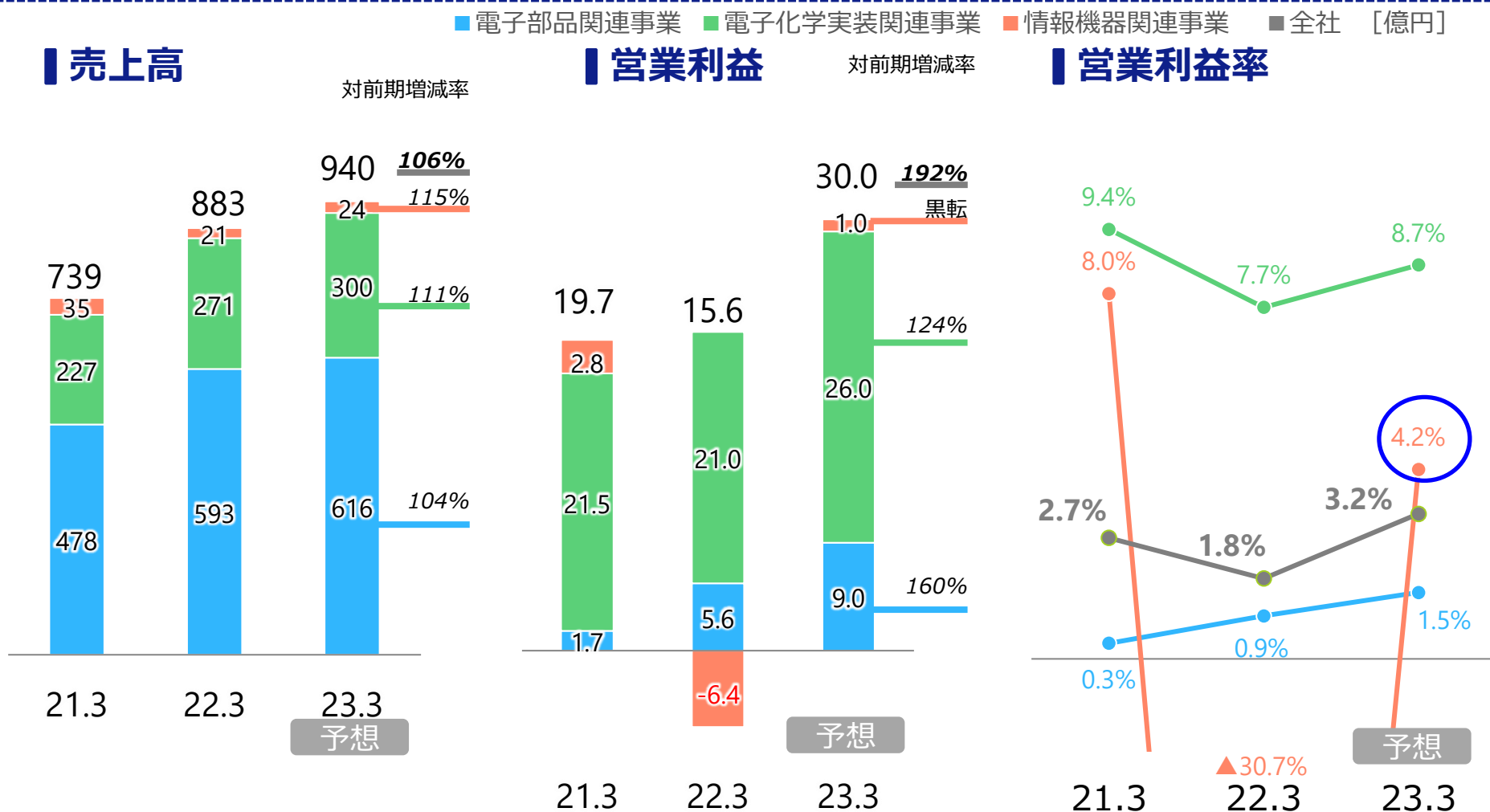
- ◆ 産業機械や家電は引き続き高水準の受注が継続しており売上拡大を予想
- ◆ 相場連動による価格改定の効果が追い付くことで利益回復
- ◆ 上海ロックダウンや車載新工場本稼働に伴う減価償却費の増加を織り込み、保守的な利益計画

[百万円]

	2022.3期			2023.3期		
	実績	構成比	前期比	予想	構成比	前期比
売上高	88,328	100.0%	+19.5%	<b>94,000</b>	100.0%	+6.4%
営業利益	1,564	1.8%	▲20.5%	<b>3,000</b>	3.2%	+91.7%
経常利益	2,001	2.3%	▲16.1%	<b>3,000</b>	3.2%	+49.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲84	-	赤転	<b>1,800</b>	1.9%	黒転
為替 (円/米ドル)	期中平均	111.16	+5.73	120.00	+8.84	
	期末	122.39	+11.68	120.00	▲2.39	
1株当り配当	10.00円	+2.00円	10.00円	0.00円		
配当性向	-	-	45.6%	-		
ROE	▲0.2%	▲1.4pt	3.6%	+3.8pt		

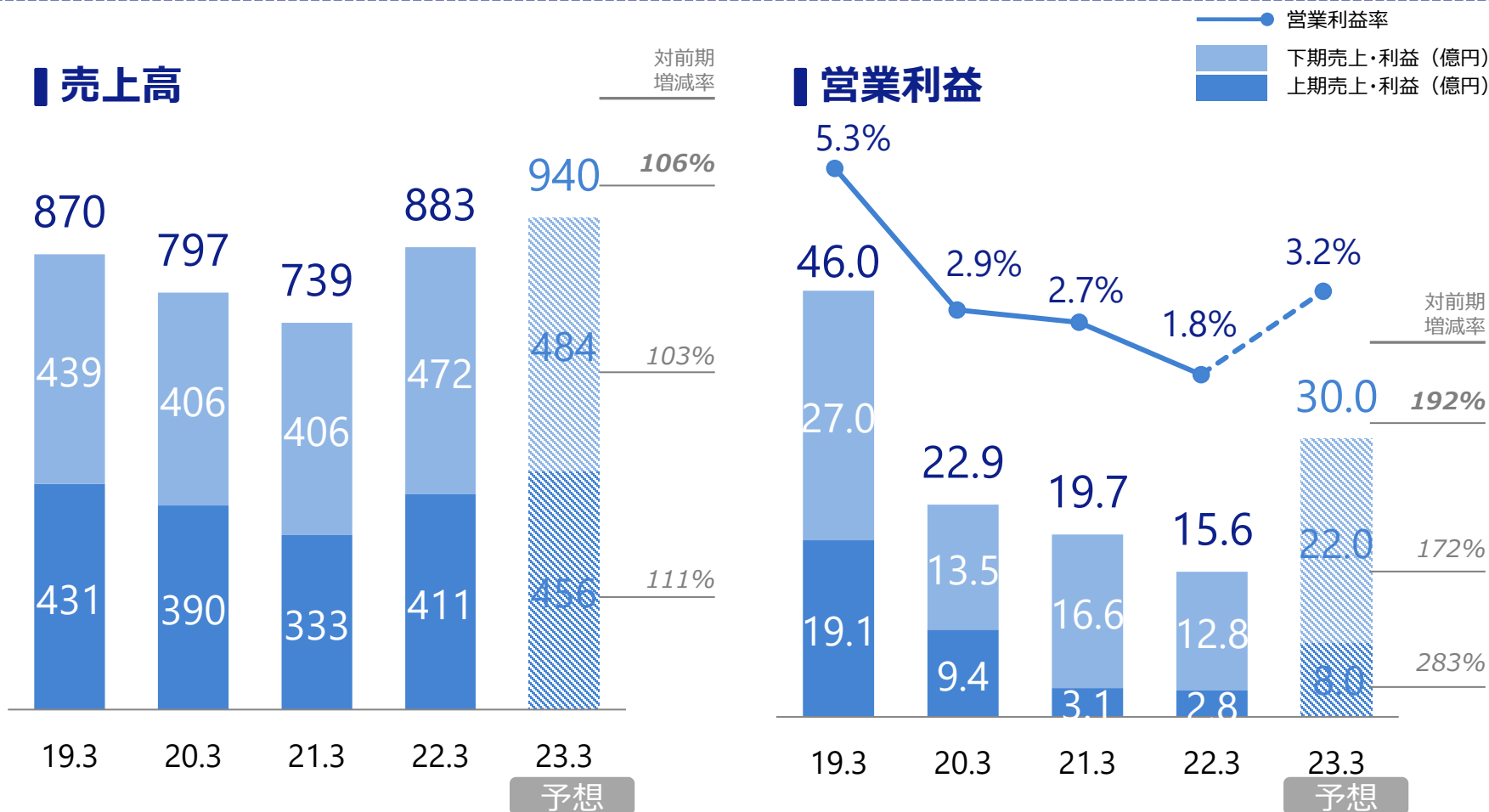
# 2023年3月期 事業部門別業績予想

- ◆ 放送機器や自動販売機関連の正常化を踏まえ、全事業部門で増収増益計画
- ◆ 引き続き高水準の売上を見込むが、上期は上海ロックダウンの影響などを織り込み慎重に利益を予想



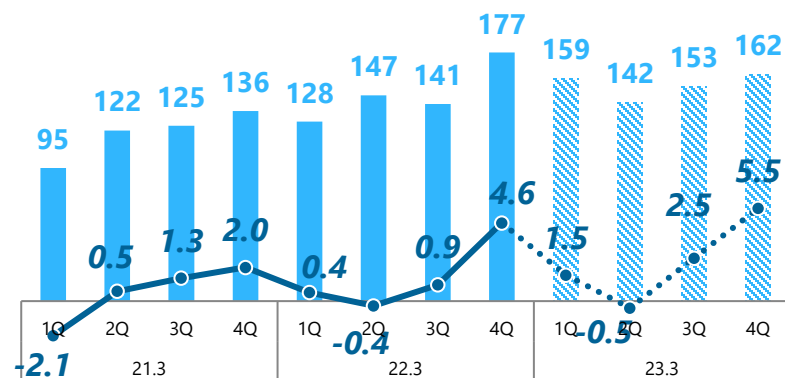
# 2023年3月期 業績予想（半期推移）

- ◆ 上海ロックダウンの影響等がなくなる下期にかけて増益予想
- ◆ コロナ影響で低迷した利益率の回復を図る



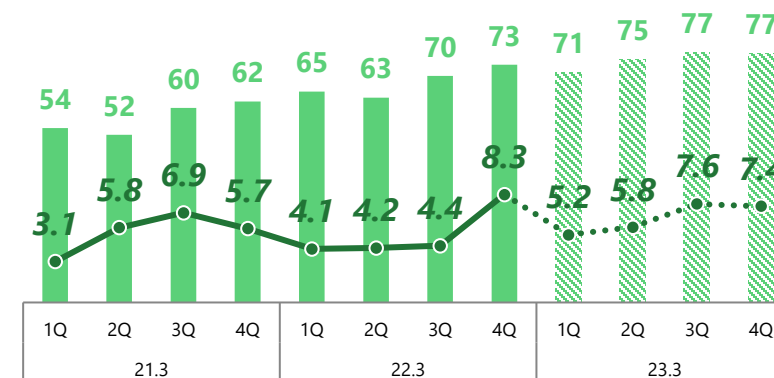
# 2023年3月期 事業部門別 売上高・損益予想（四半期推移）

## 電子部品

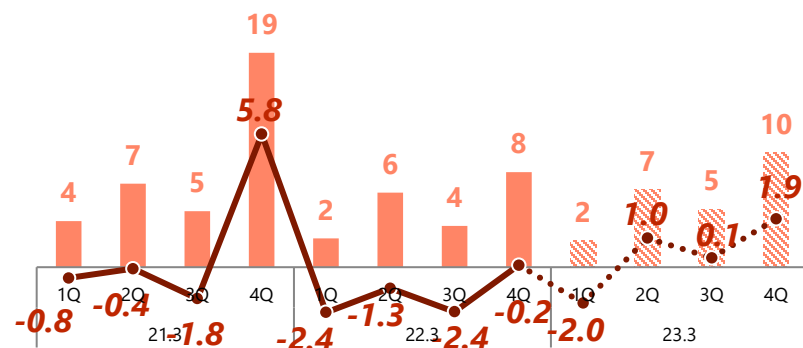


## 電子化学実装

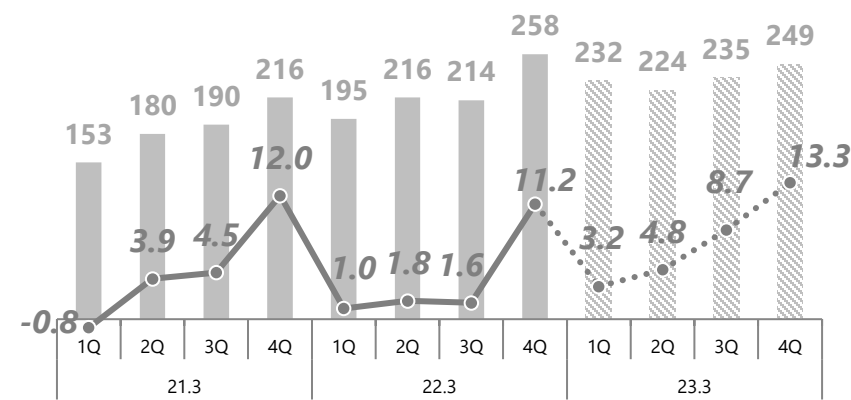
■ 売上高(億円) ● 営業利益(億円)



## 情報機器



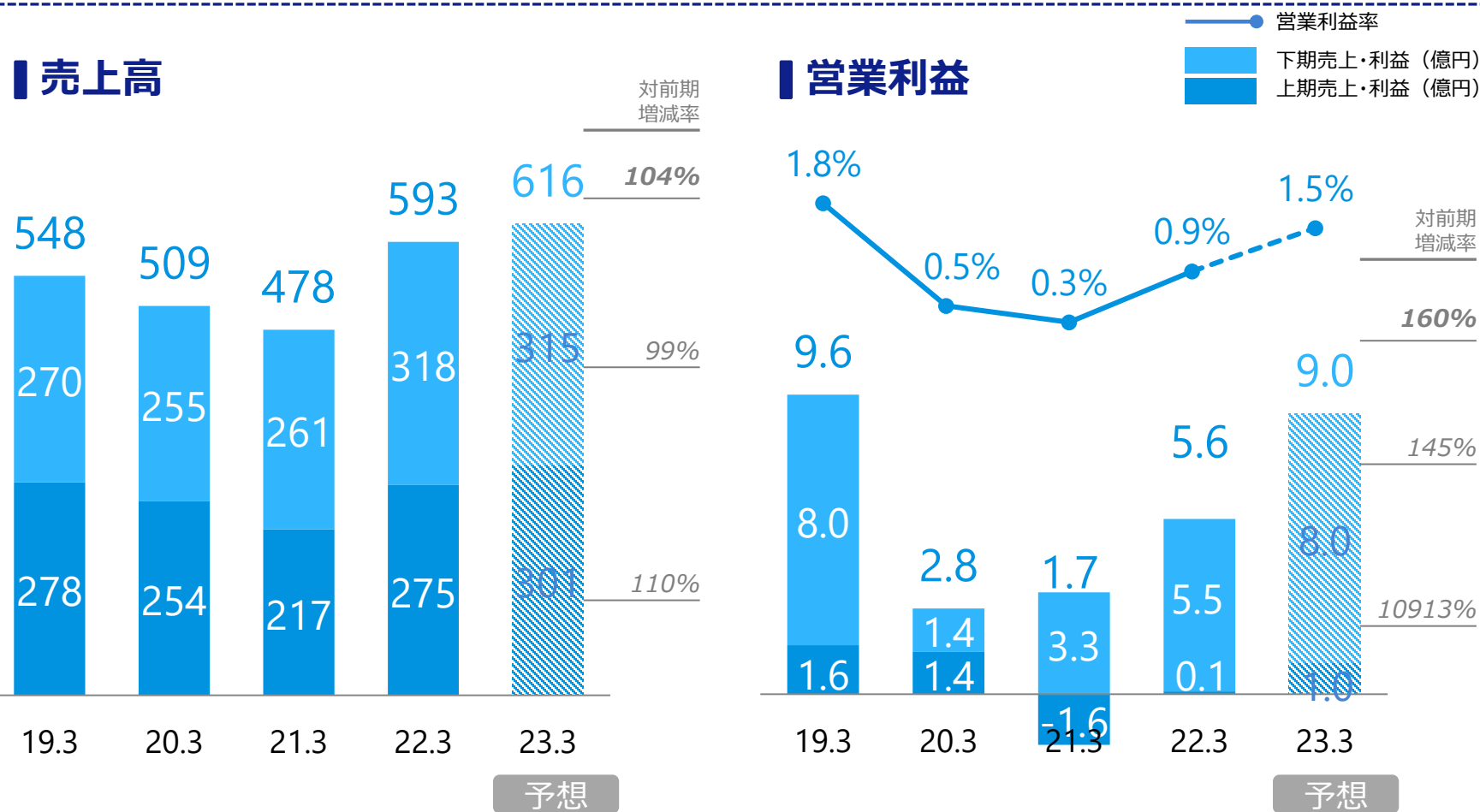
## 全社



注：放送機器の売上は期末（2Q・4Q）に集中する傾向あり

# 【事業部門別】電子部品関連事業の見通し①

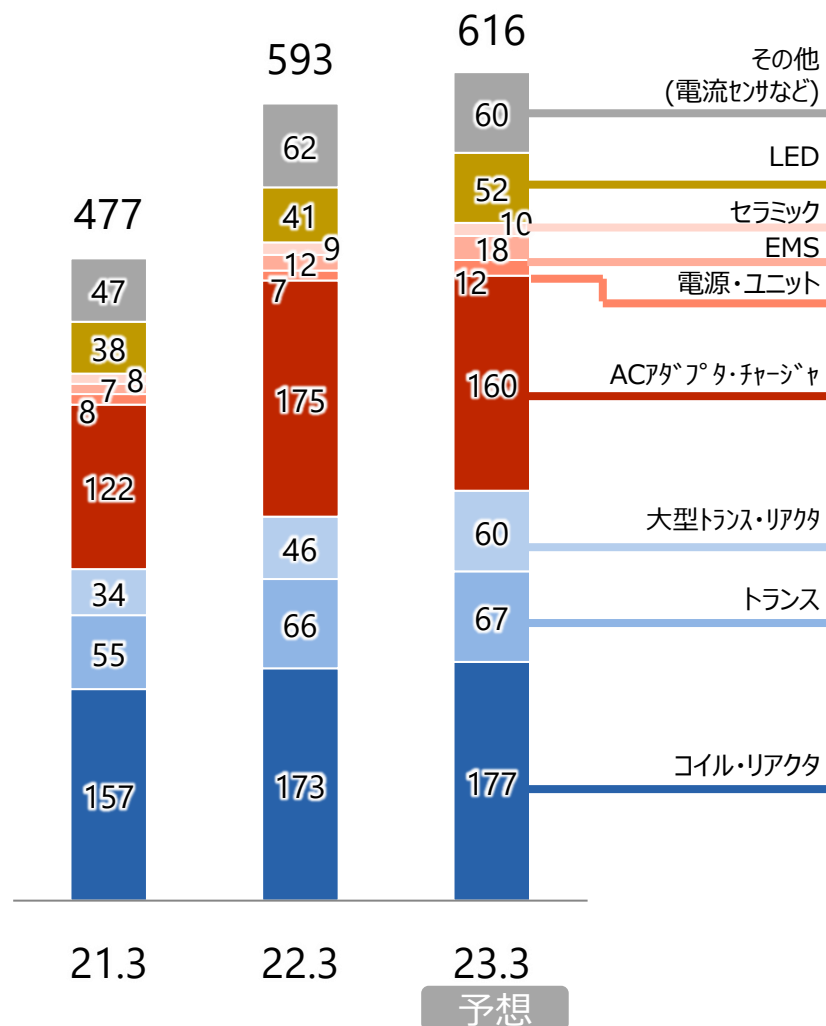
- ◆ 電動工具向けチャージャや、産業機械向けトランス・リアクタの高水準の需要継続を見込む
- ◆ 上海ロックダウンや円安、車載新工場の稼働開始に伴う減価償却費の増加などの影響で収益改善は緩やか



# 【事業部門別】電子部品関連事業の見通し②

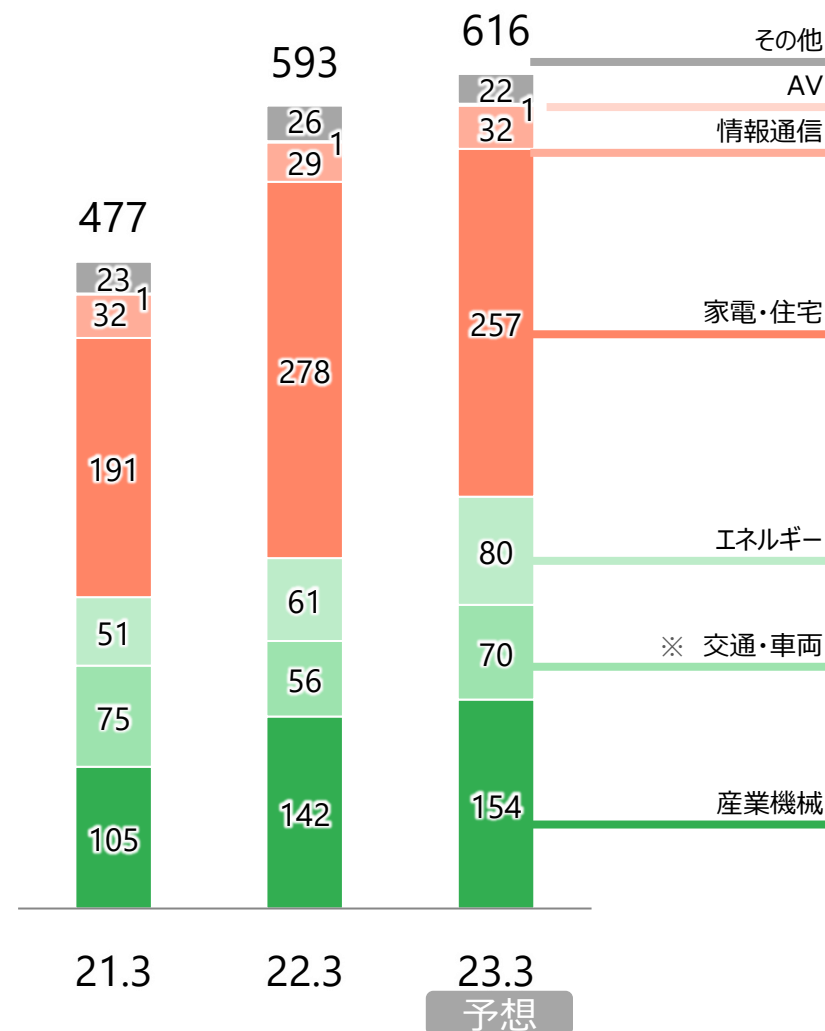
## 製品別売上高

[億円]



## 市場別売上高

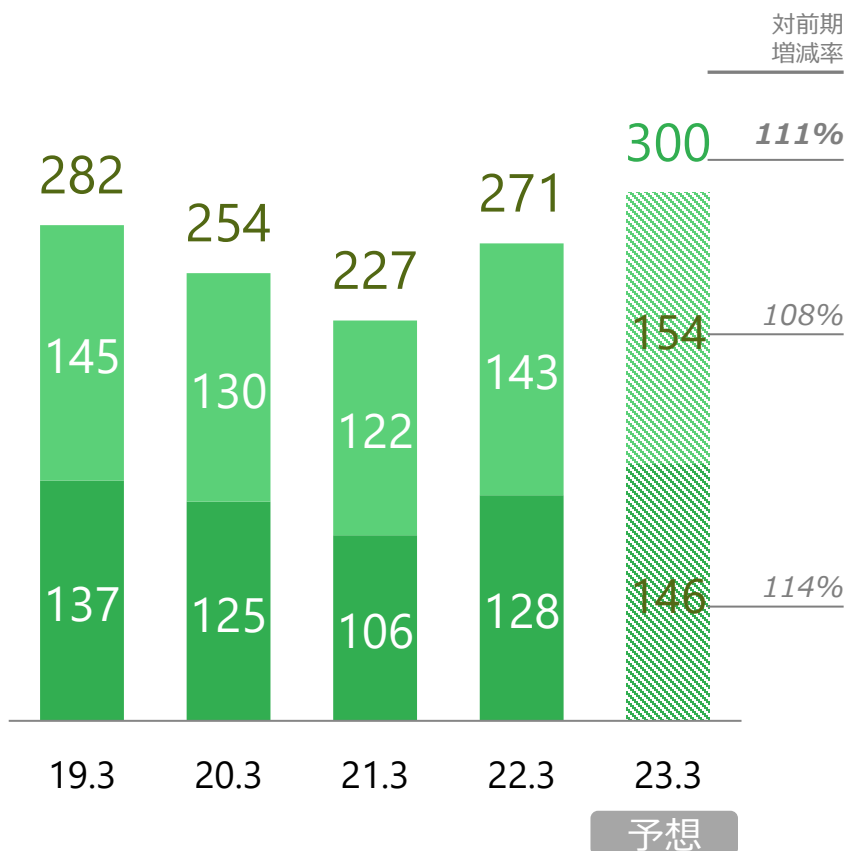
[億円]



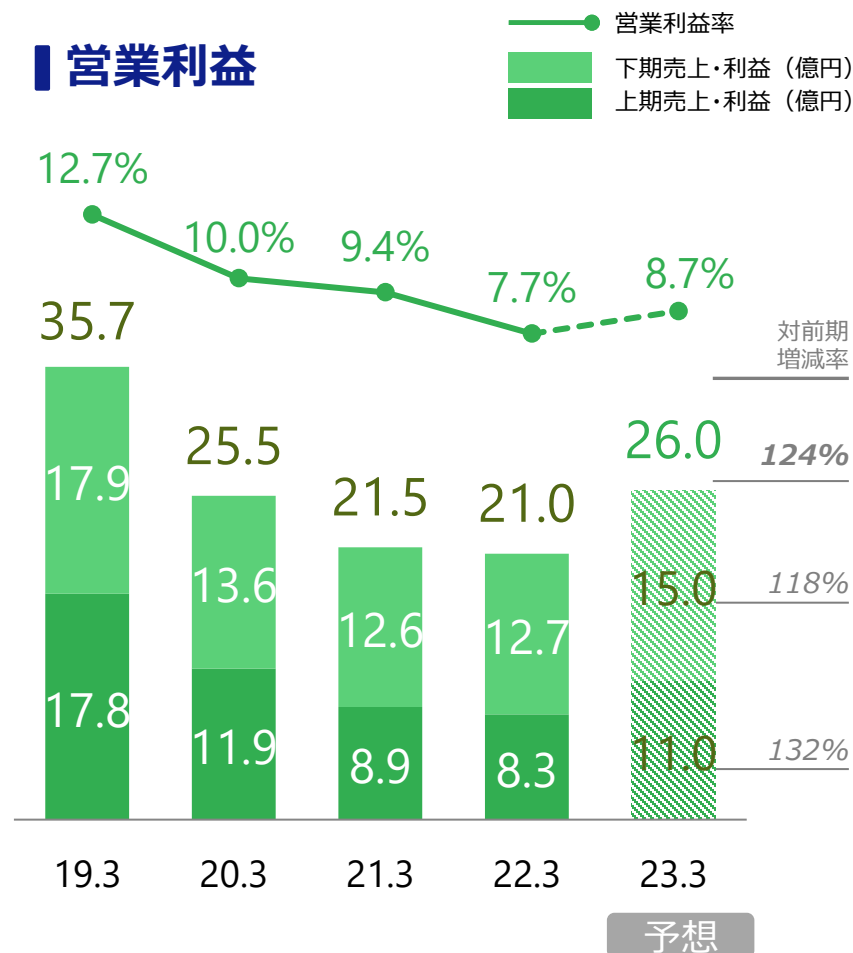
# 【事業部門別】電子化学実装関連事業の見通し①

- ◆ 電子化学材料は溶剤ペーストの材料である錫価格の上昇を織り込み上期利益はやや厳しい
- ◆ リフロー装置は日系車載メーカー向けを中心に売上の伸長を見込む

## 売上高



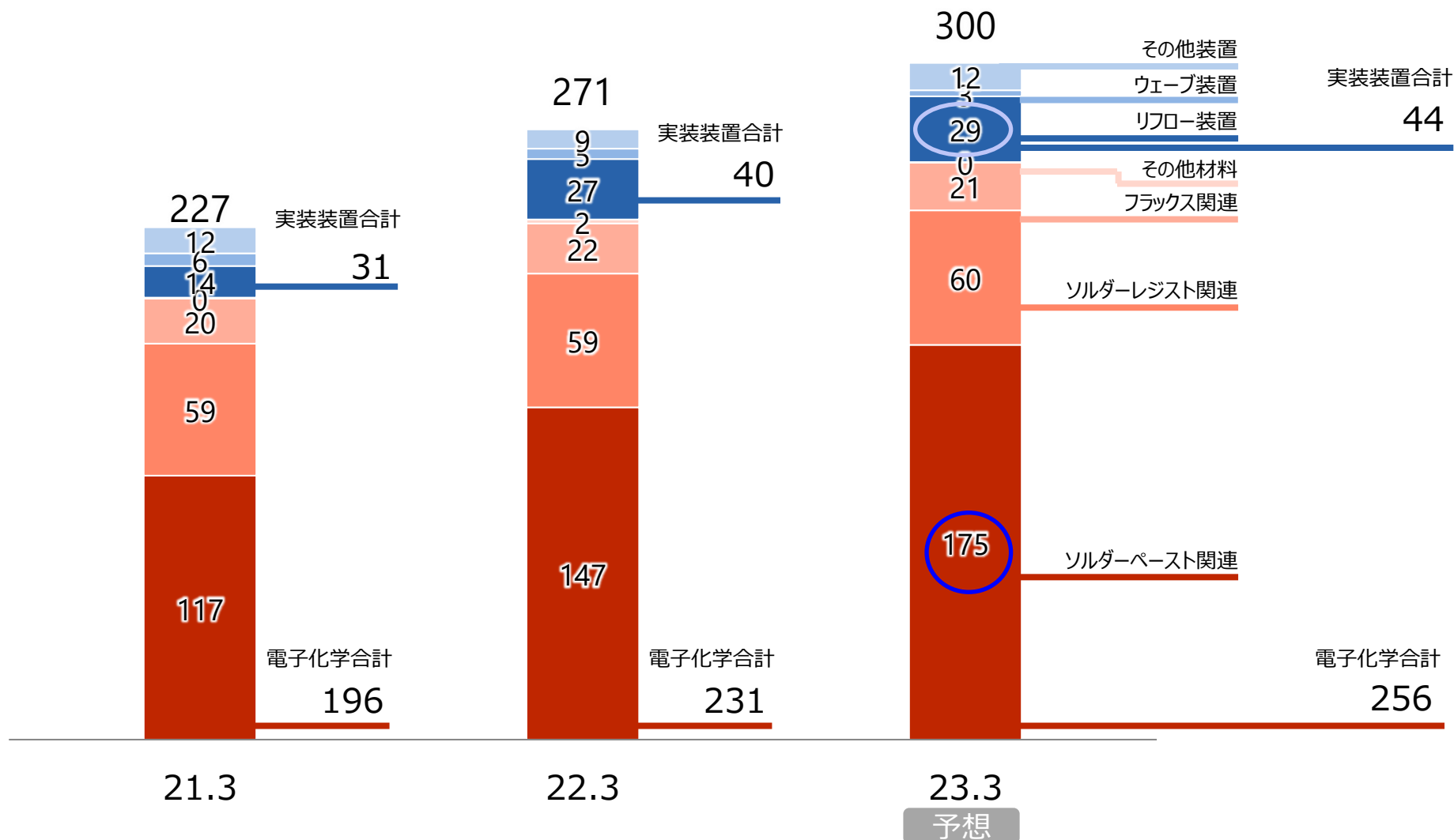
## 営業利益



# 【事業部門別】電子化学実装関連事業の見通し②

[億円]

## 製品別 売上高

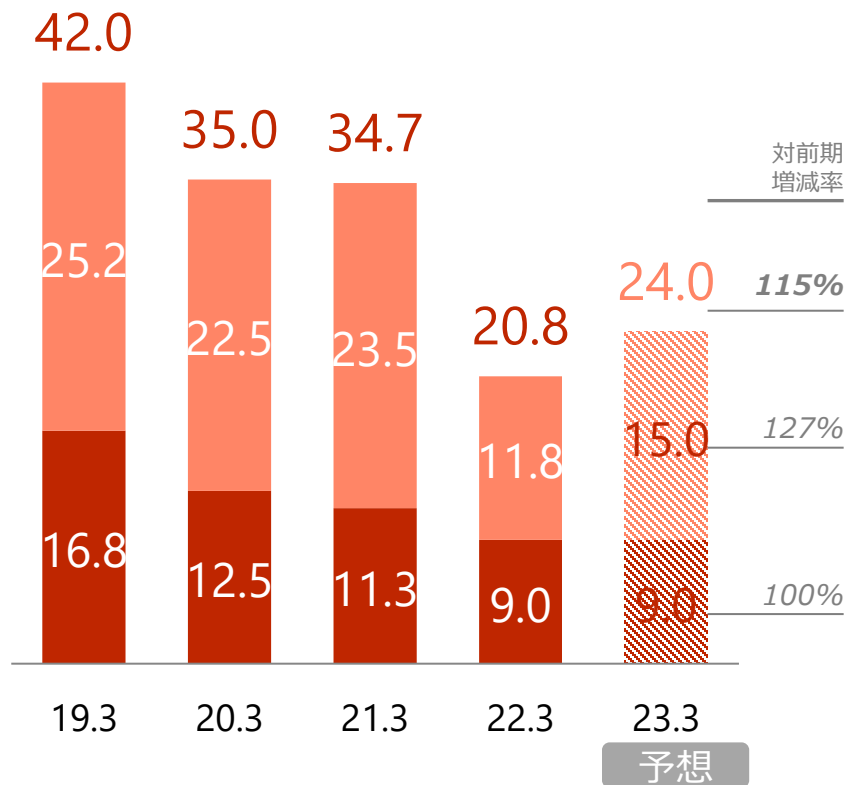




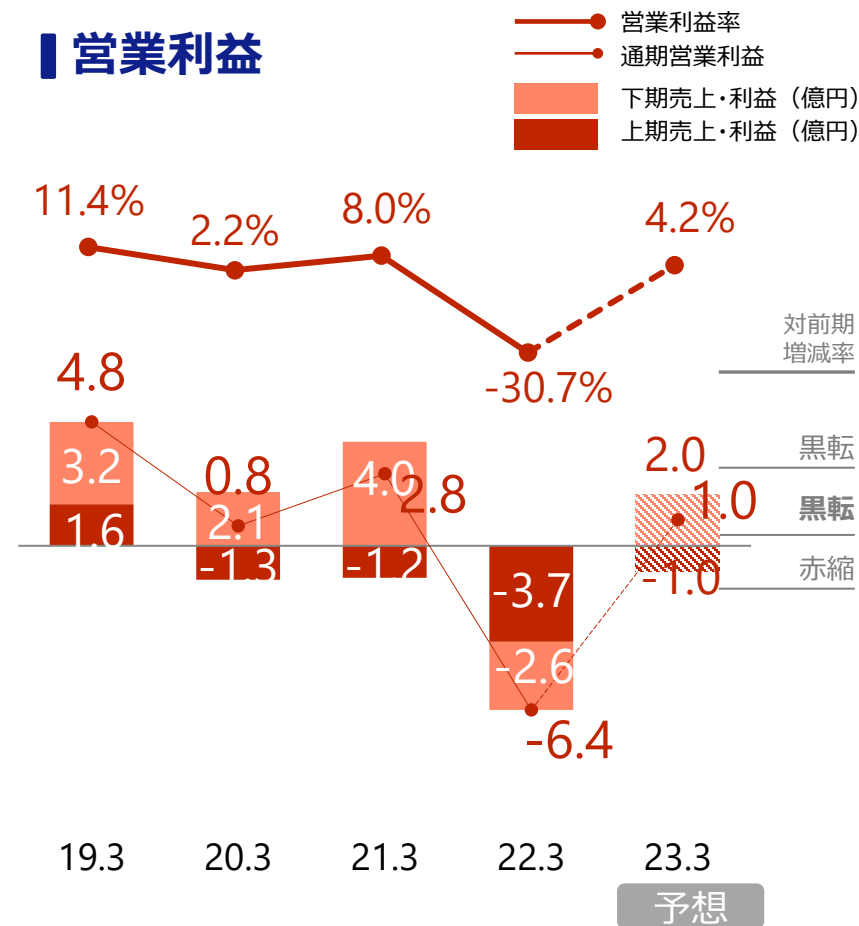
# 【事業部門別】情報機器関連事業の見通し

- ◆ 放送局向け機材の設備投資は引き続き低調だが、前期から納品がずれ込んだ分の売上を予定
- ◆ 通信事業者向けの監視装置の更新需要などもあり黒字化を見込む

## 売上高



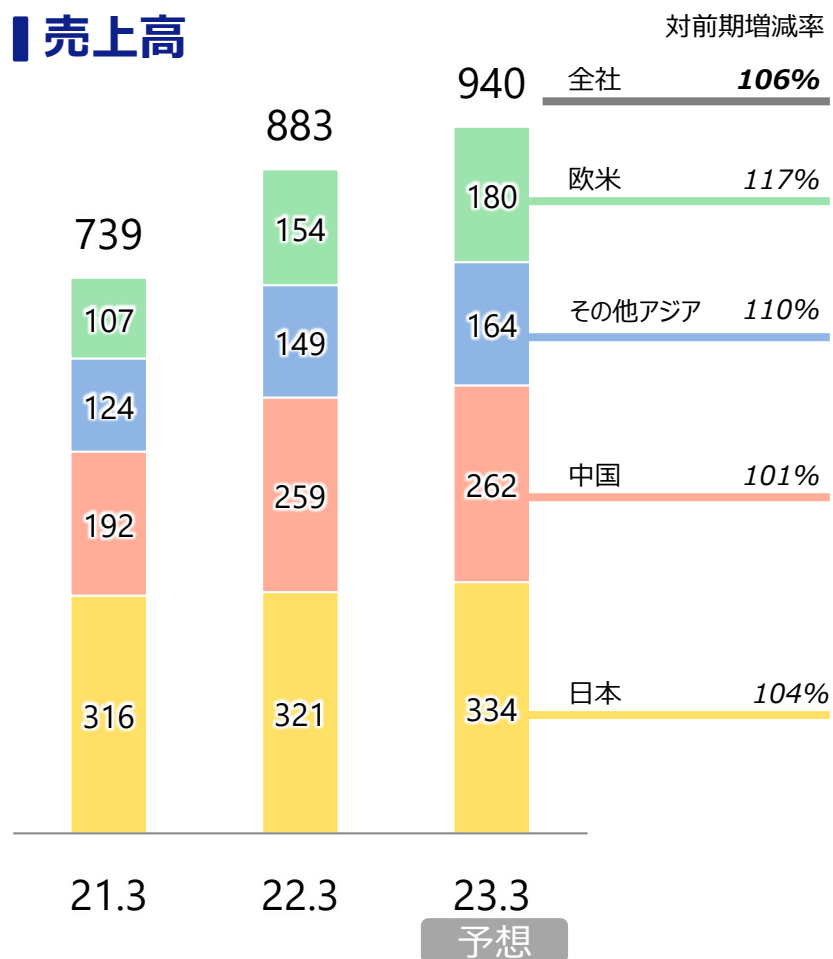
## 営業利益



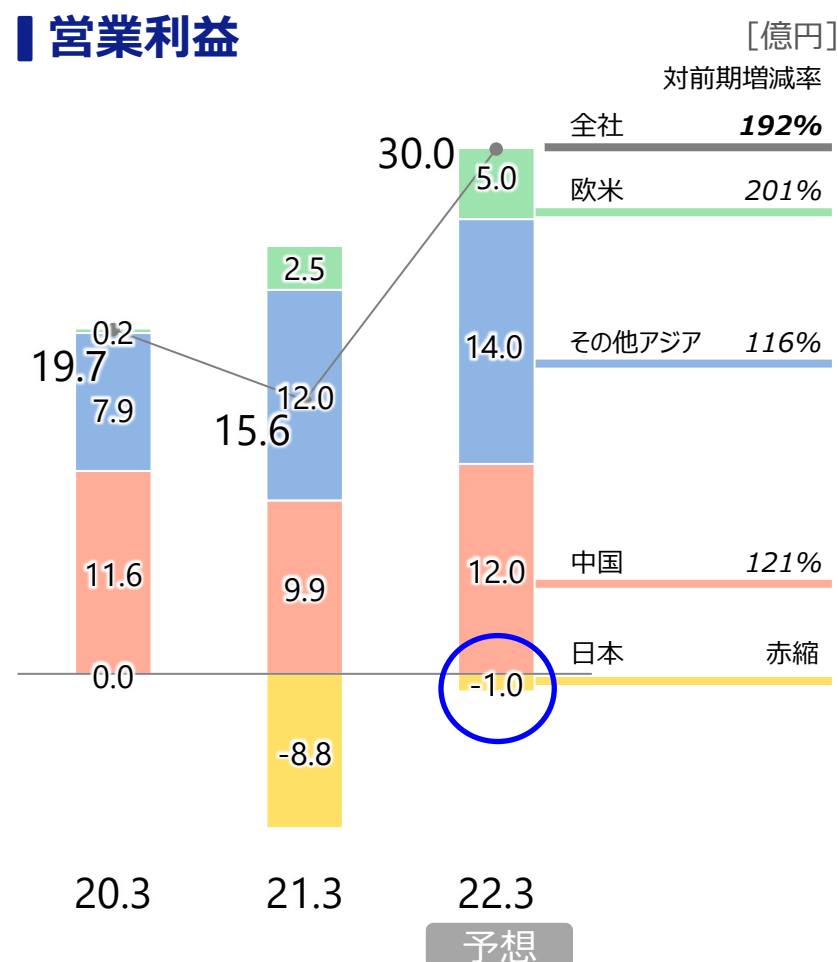
# 2023年3月期 地域別 売上高・損益予想

- ◆ 日本は、前期一時的に縮小した放送局向け音声卓や自動販売機向けLED製品の売上回復により赤字幅縮小
- ◆ 欧米は環境エネルギー向け製品が拡大

## 売上高

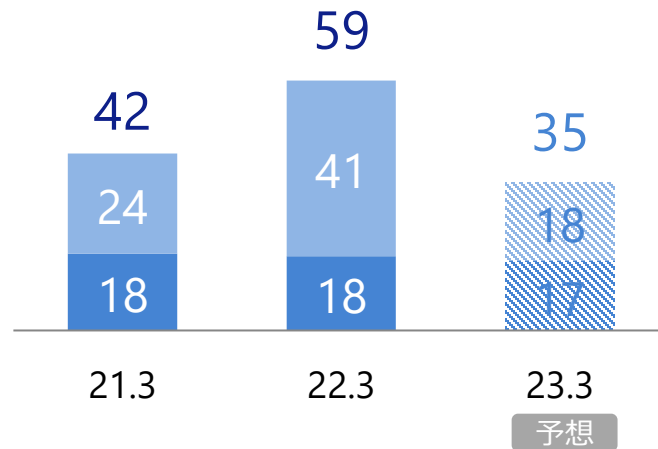


## 営業利益

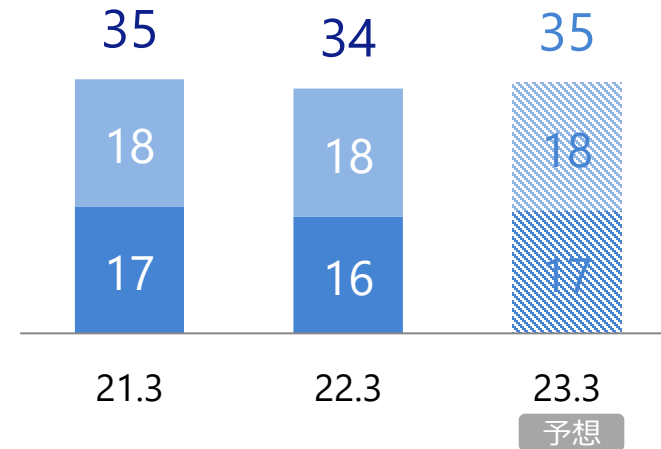


# 設備投資・減価償却費・研究開発投資

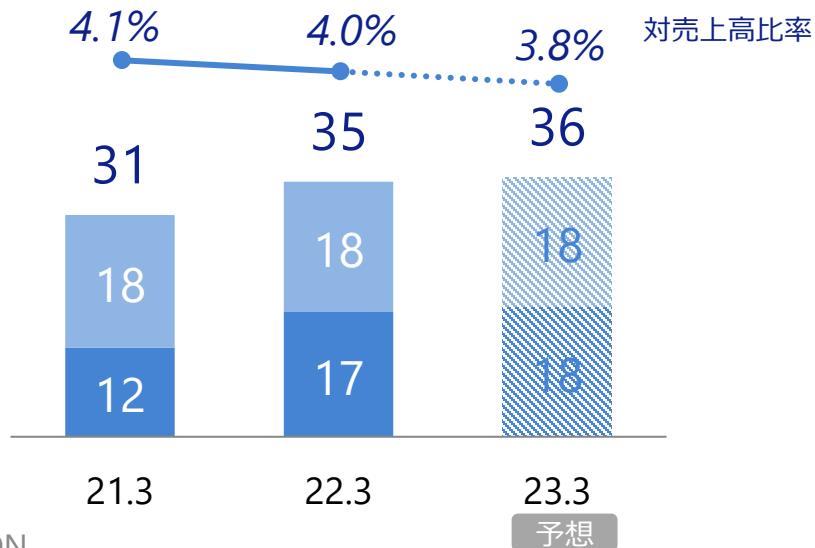
## 設備投資 ※リースを含む



## 減価償却費



## 研究開発関連費用



### 主な設備投資

- 電子部品: 中国工場の移転・新設 (惠州・佛山)
- 電子化学実装: 国内外生産設備増強

### 主な開発投資

- ガストコア高周波対応新素材開発 (車載リアクタ)
- 高耐圧・高周波対応ゲートドライバ、EMC性能強化電流センサ
- 高機能絶縁材開発
- 環境貢献型リフロー装置

注: 「研究開発関連費用」は、研究開発テーマに関わる経費・労務費・設備投資などを、当社の基準で集計している値です。

# 3. 第13次中期経営計画

第13次中期経営計画

# Energize the Future 100

創業100周年とその先の  
力強い未来を創る変革

2023年3月期-2025年3月期

# 目次

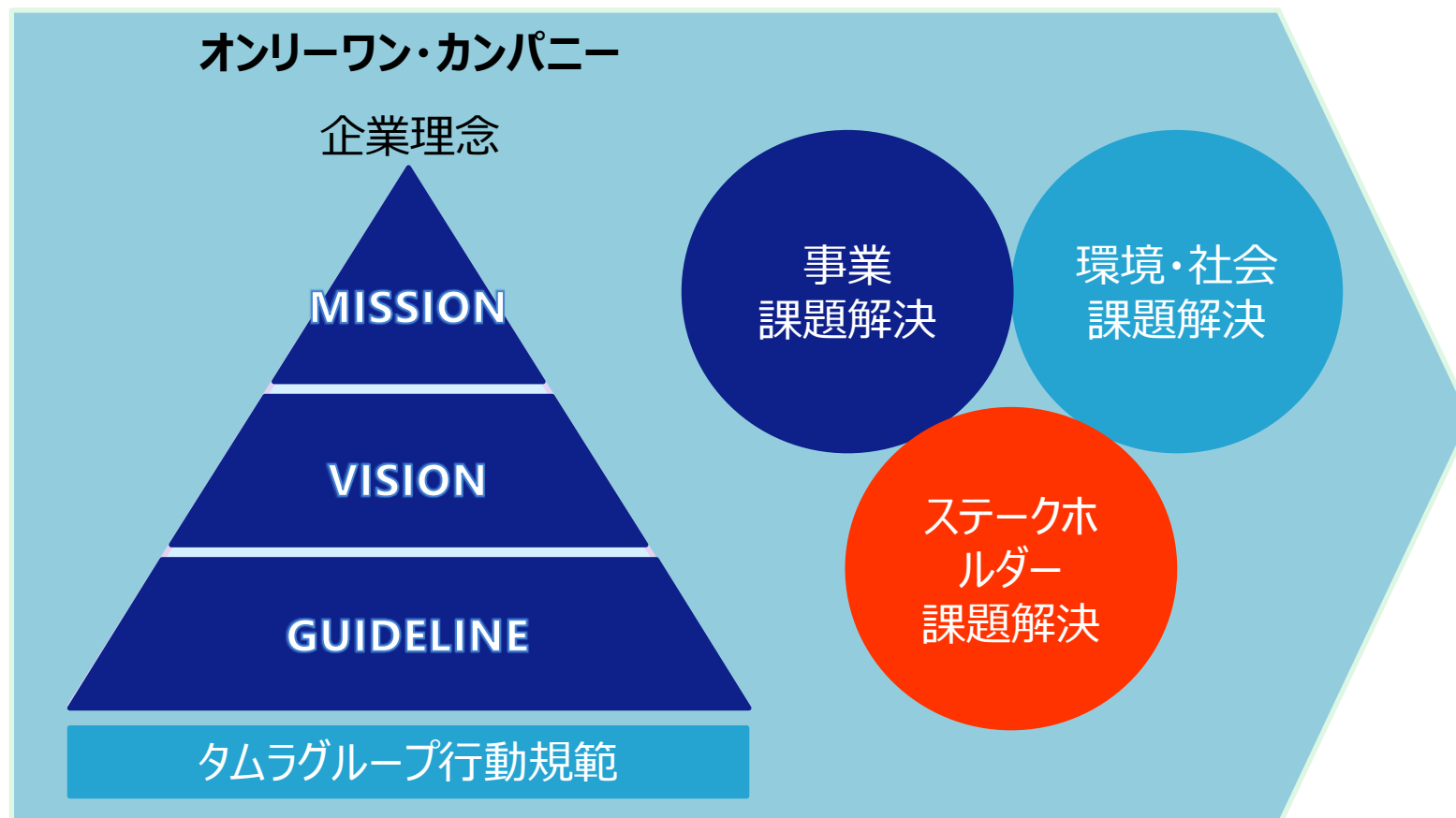
- 2050ありたい姿
- 第12次中期経営計画の振り返りと事業環境
- 第13次中期経営計画
  - 概要
  - 財務務目標
  - 重要施策・事業戦略
  - サステナビリティ戦略

# 目次

- 2050ありたい姿
- 第12次中期経営計画の振り返りと事業環境
- 第13次中期経営計画
  - 概要
  - 財務務目標
  - 重要施策・事業戦略
  - サステナビリティ戦略

## 2050ありたい姿

- ◆ 3年にわたりグループの長期ビジョンについて議論
- ◆ 創業の精神、経営理念、企業スローガンを基盤とし、ステークホルダーの要請や事業の課題を反映
- ◆ 創業100周年を最終年度とする中期経営計画と同時に新長期ビジョン「2050ありたい姿」を制定



### 2050ありたい姿

世界のエレクトロニクス市場に  
高く評価される  
脱炭素社会実現の  
リーディングカンパニー



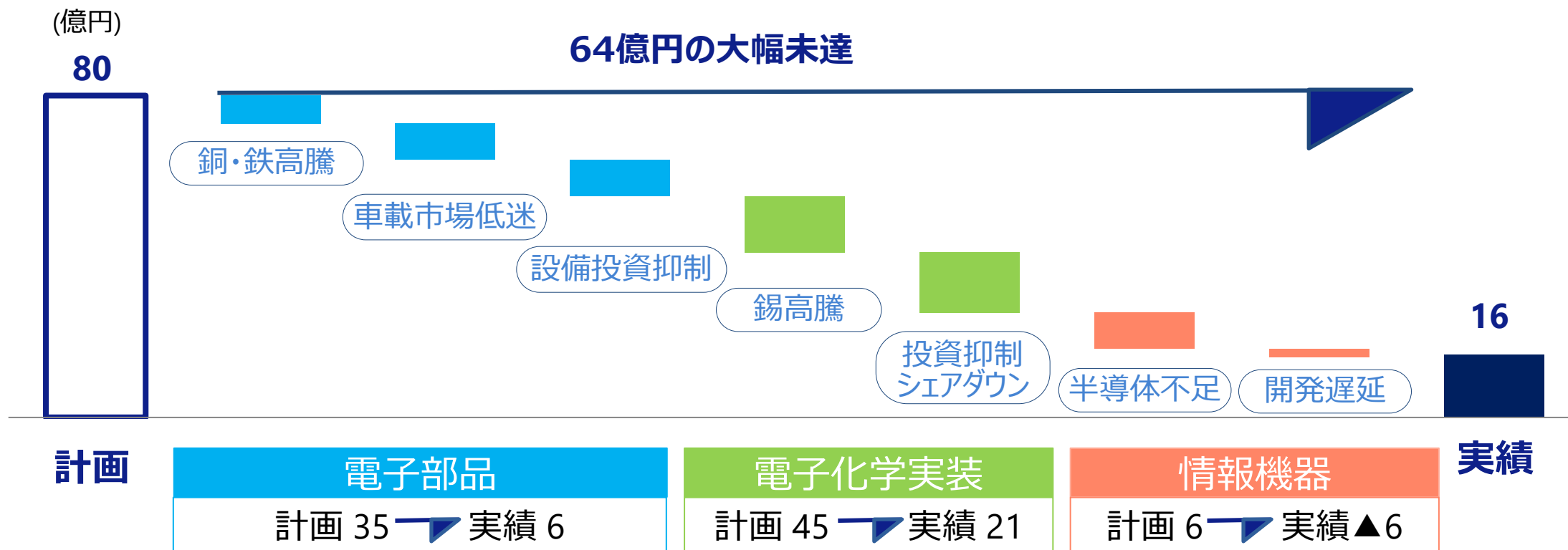
# 目次

- 2050ありたい姿
- 第12次中期経営計画の振り返りと事業環境
- 当社を取り巻く事業環境
- 第13次中期経営計画
  - 概要
  - 財務務目標
  - 重要施策・事業戦略
  - サステナビリティ戦略
  - キャッシュアロケーション

# 第12次中期経営計画 振り返り①

- ◆ 素材価格高騰など、外部環境の急激な変化に迅速に対応できず
- ◆ 素材価格に加え、物流やエネルギーコスト上昇もあり収益性悪化、計画利益に大きく至らず

## 2022年3月期 営業利益



# 第12次中期経営計画 振り返り②

- ◆ 財務指標は計画未達な一方、Oneタムラ(事業連携) やサステナビリティ戦略基盤の整備を推進
- ◆ 経営体制・生産体制・人事制度・ICTインフラなど、次期中期での変革を実現するための土台構築

## 第12次中期経営計画 Biltrite Tamura GROWING ANEW

### × 収益性の向上課題

	計画	実績	達成率
売上高(億円)	1,000	<b>883</b>	88%
営業利益率	8.0%	<b>1.8%</b>	23%
ROE	9%以上	<b>▲0.2%</b>	—

### ✓ 変革に向けた土台構築

- 事業横断開発プロジェクト発足  
⇒ 新たなコア技術の開発
- 中国生産工場再編 (生産最適化推進)  
⇒ 2工場新設、1工場移転、1工場閉鎖
- 働き方改革・働きがい改革推進  
⇒ ICT活用、人事制度整備 等々

One  
タムラ

### ✓ サステナブル経営への歩みだし

- マテリアリティの特定含む  
サステナビリティ戦略の基盤を整備

#### 実施事項

- ・2018/10: SDGs基本方針
- ・2019/4: サステナビリティ戦略
- ・2020/5: 温室効果ガス削減目標
- ・2021/5: マテリアリティ定義
- ・2021/5: 2030年温室効果ガス削減目標修正

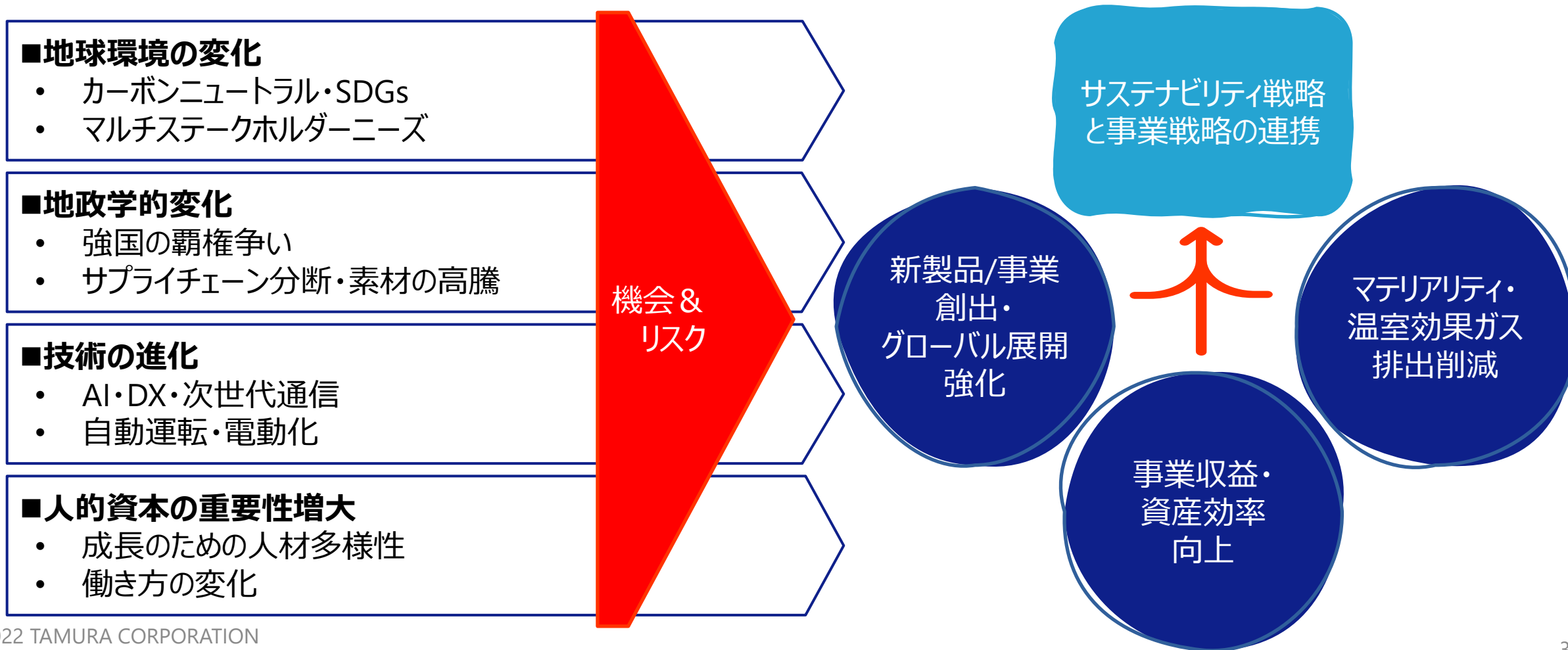
## 第13次中期経営計画

### Energize the Future 100

創業100周年と  
その先の力強い未来を創る変革

# 当社を取り巻く事業環境

- ◆ サプライチェーン分断・地政学的リスク増加など外部環境の変化が加速
- ◆ 機動力を高めてリスクに対応するとともに、新たな機会をとらえ企業価値創出を目指す



# 目次

- 2050ありたい姿
- 第12次中期経営計画の振り返りと事業環境
- 第13次中期経営計画
  - 概要
  - 財務務目標
  - 重要施策・事業戦略
  - サステナビリティ戦略

# 第13次中期経営計画 (2022/4～2025/3) の概要

◆ ありたい姿、第12次中期経営計画の振り返り、当社を取り巻く環境を踏まえて策定

## Energize the Future 100

創業100周年とその先の力強い未来を創る変革

### 事業戦略: 成長と効率の二本柱

- カーボンニュートラルに貢献する事業成長

グローバル  
展開強化

新製品  
新事業  
創出

- 事業収益・資産効率向上

営業利益  
60億円  
(6%)

ROE 8%

2024  
100周年

### サステナビリティ戦略

マテリアリティを軸に、2030年  
温室効果ガス削減目標達成と  
「2050ありたい姿」実現を目指す

マテリアリティ

- ① 持続的な事業成長
- ② 製品品質の向上
- ③ 適正なサプライチェーン
- ④ コンプライアンス
- ⑤ 働きがいの実現
- ⑥ 地域社会との共生
- ⑦ 地球環境保全・脱炭素社会の  
実現への貢献
- ⑧ 情報開示の充実

2050

### 2050ありたい姿

世界のエレクトロニクス市場  
に高く評価される  
脱炭素社会実現の  
リーディングカンパニー

# グループ財務目標

- ◆ 施策を積み上げ、業績を早期に立て直すことを最優先
- ◆ 営業利益・営業利益率・ROEを指標とし、利益成長と資本効率向上を目指す

## ■ 財務目標

	2022/3実績
営業利益	15.6億
営業利益率	1.8%
ROE	▲0.2%

第13次中期経営計画		
2023/3	2024/3	2025/3
30億	50億以上	60億以上
3.2%	5%	6%
		8%

第14次中期以降	
	8%
	10%
	1,300億以上
	8%

## ■ 財務目標達成のためのガイドライン

連結売上高	883億
事業別利益率	
電子部品	0.9%
電子化学実装	7.7%
情報機器	▲30.7%
ROIC	1.6%

940億	≒1,000億	1,000億以上
1.5%	4%	5%
8.7%	9%	10%
4.2%	12%	15%
		6%

# 中長期の成長に向けた方針

◆ 世の中から求められる唯一無二の会社として  
100周年とその先の成長を続けていくために取り組みを進める

1. 創業の原点に立ち返り、時代の変化を先取りした製品・サービスを提供する  
→ **カーボンニュートラルとエネルギー**に関わる分野に注目する
2. コア技術の強みを生かして製品を展開する  
→ **素材からエレクトロニクス**にアプローチする
3. **電子部品事業**の収益力強化により**電子化学実装事業**との両輪化を目指す  
→ グループ横ぐし機能を生かして重点領域に技術や経営資源を集中



# カーボンニュートラルに貢献する事業領域

- ◆ 自動車電動化、再生エネルギー需要増大、各国省エネ規制強化に伴うニーズの高まりに対応
- ◆ 大容量の電気コントロール・エネルギー変換効率化に伴う高周波化対応技術を生かした成長

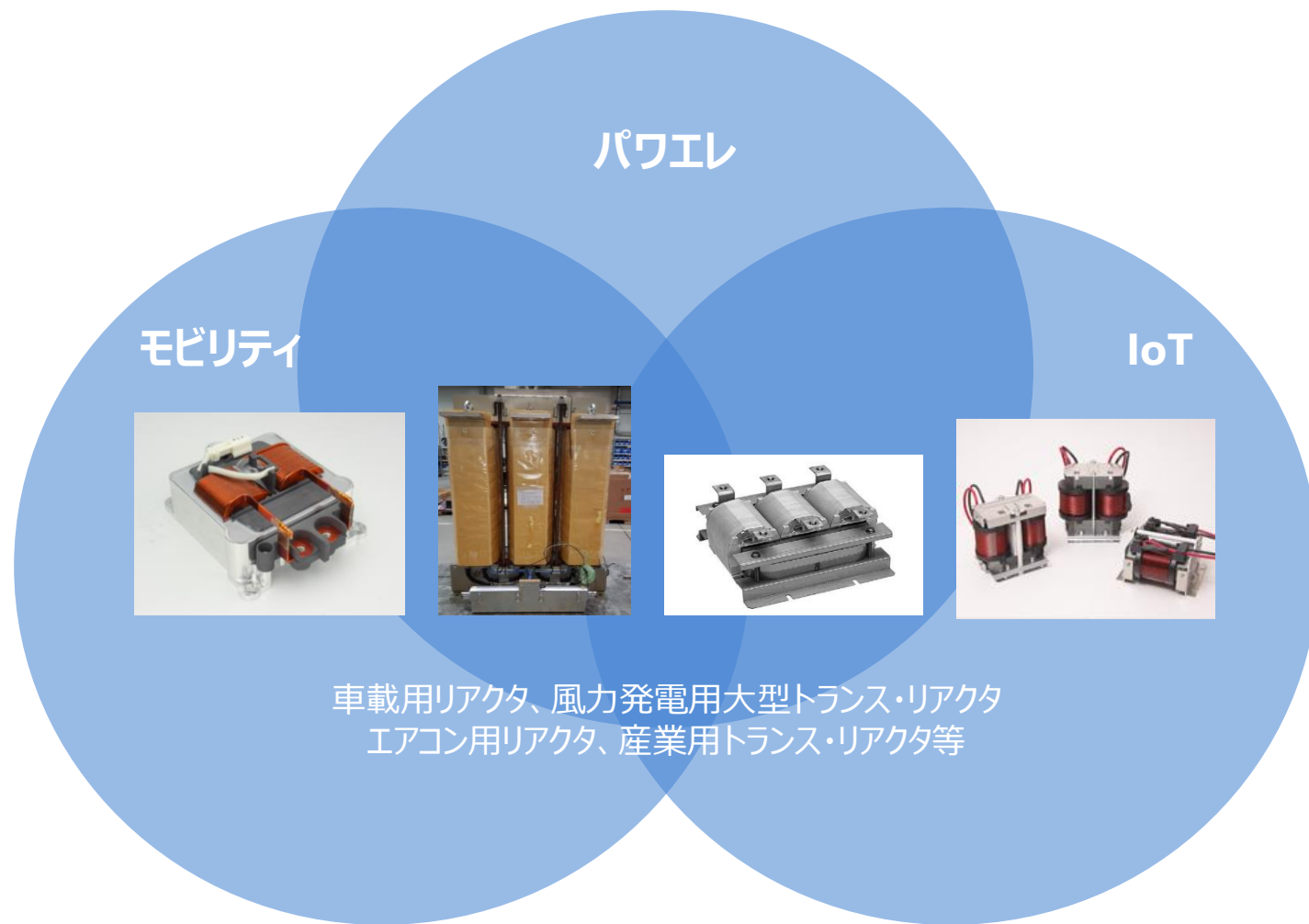
## コア技術の強みを生かした成長

高周波磁性部品用  
ダストコア（圧粉磁心）

パワー半導体用  
高耐熱接合材

リフロー装置用  
熱対流制御技術

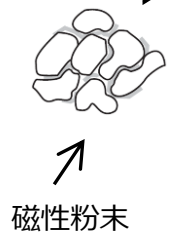
高周波・高耐圧  
次世代パワー半導体関連技術  
（酸化ガリウム）



# 素材技術をキーにグループ横串で製品展開

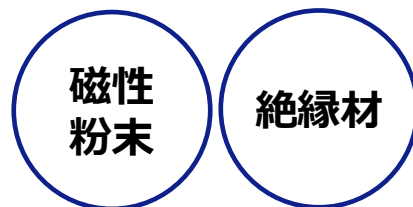
## ダストコア

- 粒径数十μ～数百μの磁性粉末に絶縁処理を施した後、潤滑剤を混合し、成型、熱処理を施したコア
- 高周波対応磁性部品の実現にはダストコアが必須とされています。
- ダストコアの技術はタムラが業界をリードしており、車載用リアクタの評価にもつながっています。

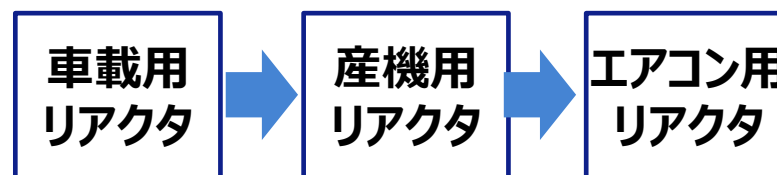


バインダ材  
 ・電気絶縁性能  
 ・接着性能

電子化学事業の  
 素材技術の活用



素材技術で差別化した  
 電子部品を拡大



- ◆ 自動車の電動化で、車載用リアクタは大きな成長が見込まれていますが、電動化の要であるモーター・インバータ周りの技術は、車載のほかにも、産機や家電でも共通です。
- ◆ 工場のCO<sub>2</sub>削減は、カーボンニュートラルの要請で急務となっており、タムラはトランス・リアクタや電流センサ、ゲートドライバモジュールなどで省エネをサポートします。
- ◆ 自社内においては、産機・車載・家電で、コア材を共通で対応することで、生産効率や品質向上を狙います。

# コア技術×カーボンニュートラル×地域戦略

## リフロー装置

- はんだを印刷したプリント基板に部品を搭載した後、加熱して溶融させたはんだで、部品と基板の回路を接合する装置です。
- 表面実装に使用するクリームはんだ（ソルダーペースト）やフラックスを扱うタムラならではの製品開発が可能です。



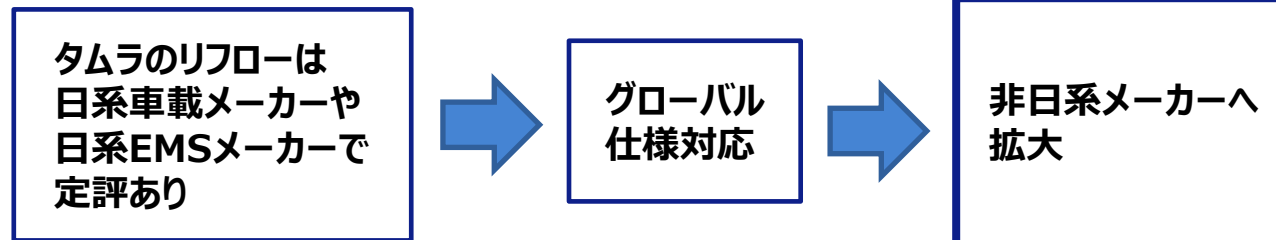
熱抵抗値2倍の炉体断熱新構造 New structure of the furnace body insulation thermal resistance value twice

安定時の平均有効電力 **8.2kW** (弊社従来機種 12.6kW)  
Average effective power in stability **8.2kW** Our previous model 12.6kW

弊社ショールームにて 室温23℃ 装置運転6時間経過時に測定 At our showroom temperature 23℃ Measured after system operated for 6 hours

消費電力削減  
約**40%**  
Power consumption about 40% reduced

世界的に工場のカーボンニュートラル対応は喫緊の課題



- ◆ 省電力・省資源を実現する優れた環境性能とそれを支えるコア技術を武器に、実装ラインの効率化を実現し、進化する世界の工場のものでづくりを支えます。
- ◆ 新型機では、装置内部の気体を効率的に誘導する対流制御技術で、炉内へのフラックス付着の低減、窒素消費量の低減を可能としています。
- ◆ 自動車の電装化の進展に伴う車載用プリント基板の需要増や、「インダストリー4.0」に代表されるスマートファクトリーの進展を背景に求められる実装機と連携性のある高性能なはんだ付装置を提供します。

# コア技術×エネルギー×地域戦略

## 大型トランス・リアクタ



- ◆ 大規模な風力発電設備や、直流給電(HVDC)による送配電で、大型トランス・リアクタが使用されます。
- ◆ 高重量で輸送費もかかる製品ですが、世界8カ所の拠点から地産地消でお届けできるのがタムラの強みです。

## ゲートドライバモジュール



- ◆ ゲートドライバモジュールは、インバータなどで使用される電力パワースイッチング半導体を駆動させる製品です。
- ◆ 低ノイズなのでIGBT、SiC-MOSFETのどちらにも対応可能。機器の設計を大幅に簡素化します。
- ◆ 足元では欧州の風力発電向けに需要が広がっています。

欧州発の技術で、大規模な風力発電関連ニーズに対応

2010年から  
欧州の技術者が  
大型トランス・リアクタの  
開発を推進



欧米や新興国の  
大規模な風力発電関連で  
採用が広がる

ゲートドライバモジュールでパワー半導体によるエネルギー変換にも対応

- ◆ 地産地消で製品供給、大型トランス・リアクタではブラジルやメキシコ拠点が活況

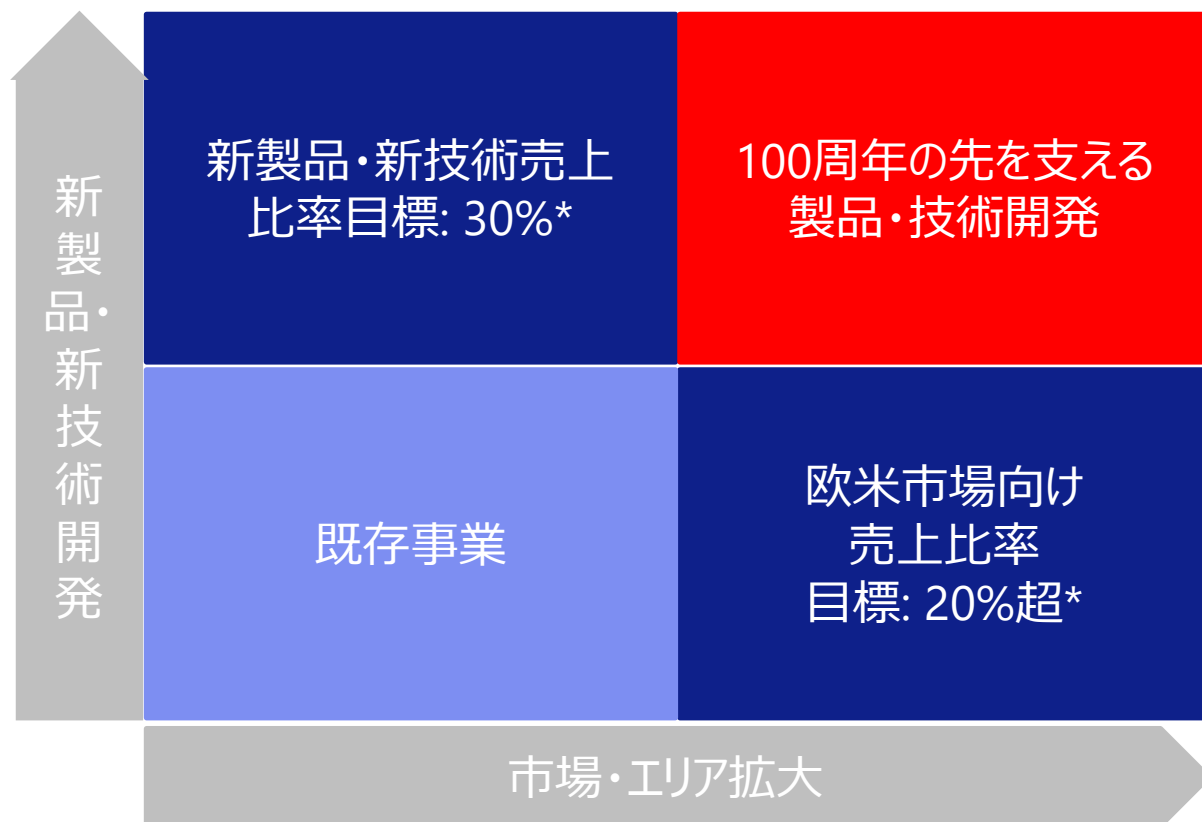


[ブラジル：インドサル社]

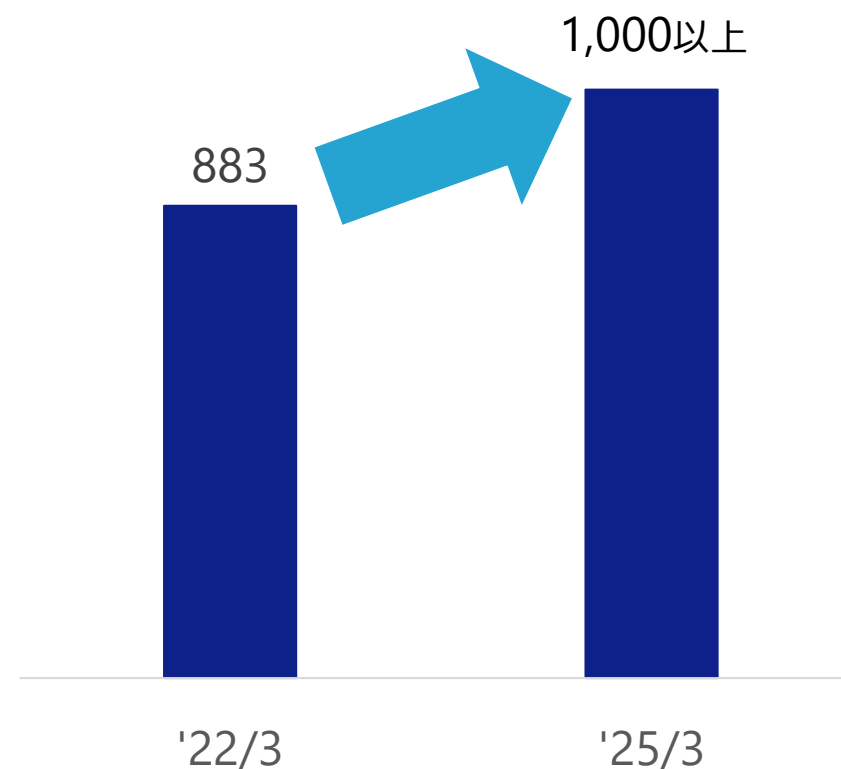
# グローバル展開と新製品・新事業創出による成長

- ◆ 既存製品・既存市場は縮小するという前提のもと、新市場・新技術の拡大を目指す
- ◆ 欧米を中心に市場拡大しブロック化する世界経済における成長を目指す

## グローバル展開強化と新製品新事業創出

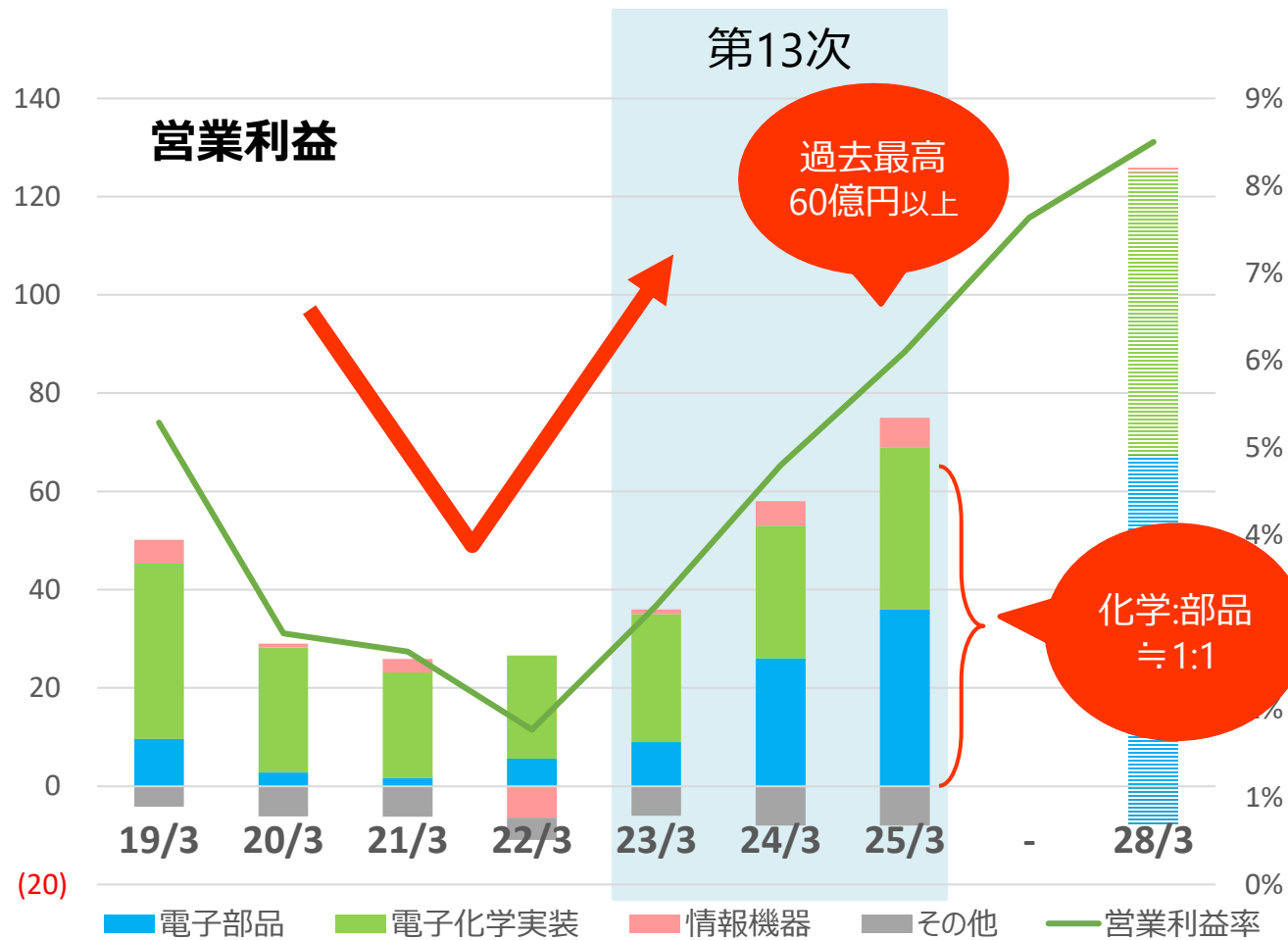
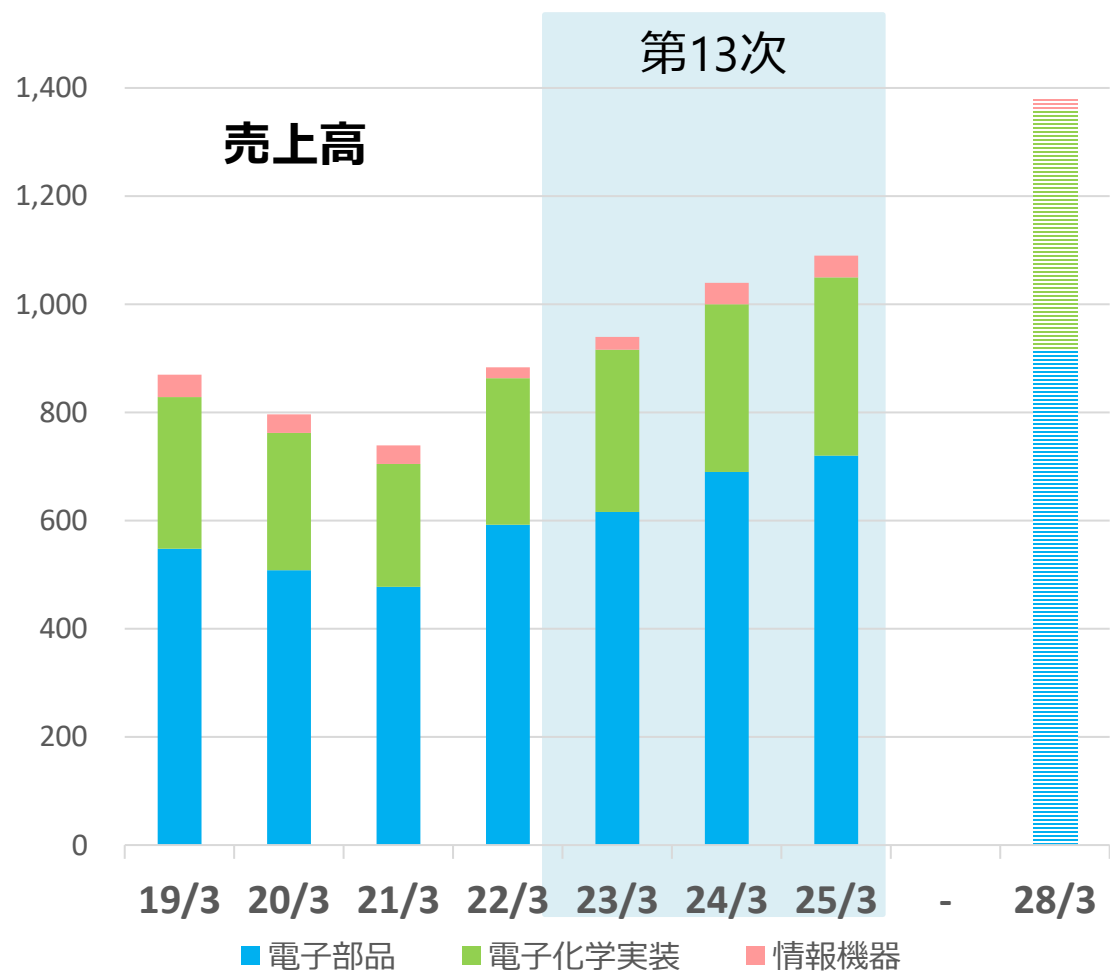


## 売上高 (億円)



# 事業収益

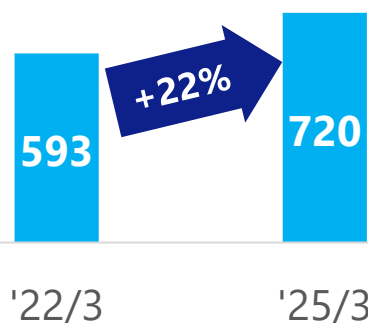
- ◆ 新型コロナウイルス感染拡大等の影響を大きく受けた事業収益のV字回復を図る
- ◆ 2025/3期に過去最高の営業利益と電子化学実装事業に匹敵する電子部品事業営業利益を目指す



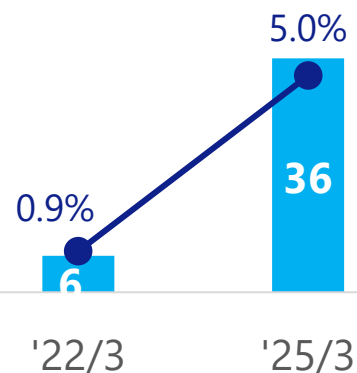
# 事業戦略：電子部品事業

- ◆ 不確実な事業環境を踏まえ、多様なニーズに柔軟に対応できるマルチパスで事業拡大を狙う
- ◆ 製品開発・地域拡大により、半導体駆動モジュールを電源と並ぶ事業へと育成する

売上高 (億円)



営業利益 (億円)  
営業利益率



CN市場の本格化 × 市場・エリア拡大 × 高収益化 = 利益刈り取り

- 市場機会：カーボンニュートラル市場の本格化
  - ・モビリティ：昇圧リアクタ、充電器用トランス・コイル（車載・定置）  
高耐圧高周波ゲートドライバ、EMC強化電流センサー
  - ・エネルギー：大型トランス・リアクタ、ゲートドライバ
  - ・地域：欧米拡大（再エネ市場・充電製品）
- 高収益化
  - ・第12次中期中の投資の成果刈り取り  
車載3拠点生産体制確立（坂戸・若柳・佛山）  
中国工場再編完了（深圳、惠州、蘇州）
  - ・高付加価値モジュール製品の拡大
  - ・高周波対応ダストコアの開発による差別化
  - ・エリア完結に向けた生産再編

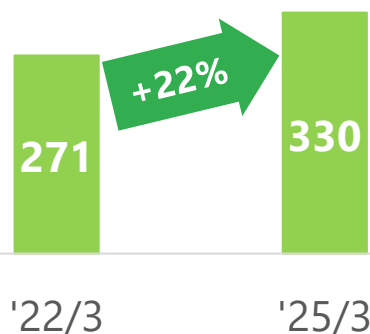


〔田村電子(蘇州)有限公司〕

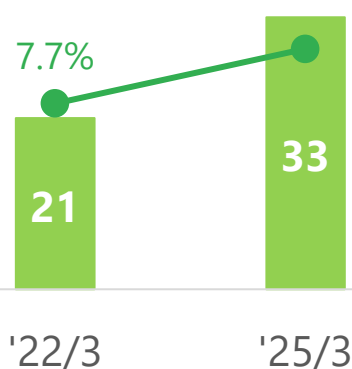
# 事業戦略：電子化学実装事業

- ◆ 第12次中期は素材価格の高騰による影響が甚大。機動的な価格戦略を展開
- ◆ 高付加価値製品開発・原価低減により体質強化し、伸長市場へのカスタムイン・市場創出を図る

売上高 (億円)



営業利益 (億円)  
営業利益率



新製品開発 × 新市場拡大 × 生産改善 = 将来の更なる利益拡大仕込み

## ■新製品開発

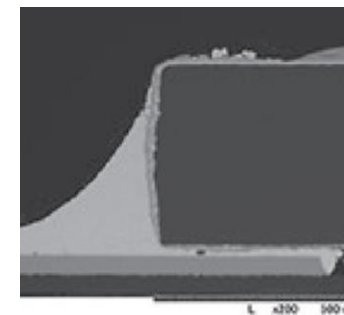
- ・次世代パワー半導体向け高耐熱接合材
- ・カバーレイ市場用製品
- ・半導体新工法向けソルダーペースト
- ・省エネルギー装置

## ■新市場拡大

- ・欧米系顧客への車載用ソルダーペースト承認活動
- ・Mini LED市場向けレジスト拡販
- ・非日系向けリフロー装置拡販

## ■生産改善

- ・地域別生産体制見直しによる収益性改善



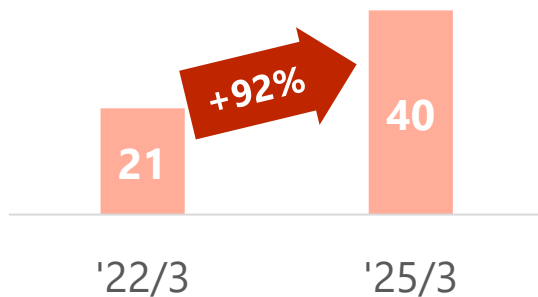
〔次世代パワー半導体向け  
高耐熱接合材〕



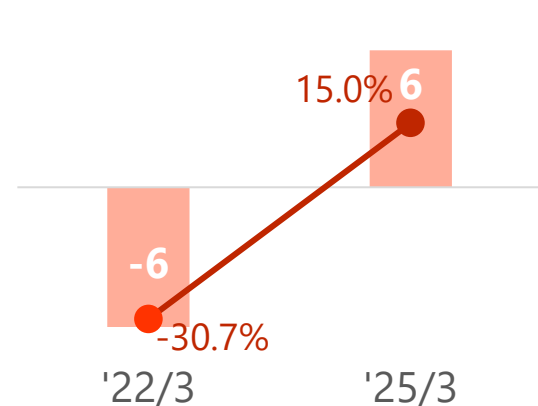
# 事業戦略：情報機器事業

- ◆ 半導体などの部材確保を着実に遂行。次世代音声卓の販売を進め、早期の黒字化・利益拡大を図る
- ◆ 放送機器のネットワーク化をはじめとする、技術やニーズの変化へ対応

売上高 (億円)



営業利益 (億円)  
営業利益率



重要顧客のニーズにタイムリーに対応して市場機会をつかむ

## ■次世代音声卓

- ・早期開発完了とタイムリーな新製品投入（キー局の更新需要への確実な対応）
- ・半導体など部材の安定確保
- ・事業体制・生産体制の効率化
- ・ネットワーク化などの技術変化に対して、周辺製品・サービスとのコラボレーション推進



[ワイヤレスインターカムシステム]



[音声調整卓]

# サステナビリティ戦略

◆ 経営・取締役会で議論を重ねマテリアリティとそれに基づくKPI・目標を設定

マテリアリティ	2025年3月期 目標	
① 持続的な事業成長	新製品・新市場向け売上比率: 30%	          
② 製品品質の向上	不良損金率: 15%削減 (第12次中期経営計画平均対比)	
③ 適正なサプライチェーン	主要調達先SAQ実施率: 100%	
④ コンプライアンス	コンプライアンス研修実施率: 100%	
⑤ 働きがいの実現	(グローバル) 従業員サーベイ実施ポイント向上: 3Pt/年 (日本) 女性・外国人・中途採用管理職比率: 10%、5%、50%	
⑥ 地域社会との共生	社会貢献費: 経常利益の1%	
⑦ 地球環境保全・脱炭素社会の実現への貢献	サステナビリティ貢献製品比率: 27% 温室効果ガス (スコープ 1 & 2) 削減: 33%以上 (2013年対比*)	
⑧ 情報開示の充実	統合報告書発行 TCFD準拠情報開示	

# カーボンニュートラル戦略

- ◆ 「2050ありたい姿」の実現、2030年の目標の達成に向けて温室効果ガス削減に取り組む
- ◆ スコープ1&2削減を優先しつつ、スコープ3排出削減も目標設定に向けて準備

## 第13次中期経営計画目標

2024年に2013年対比温室効果ガス排出を33%以上削減\*

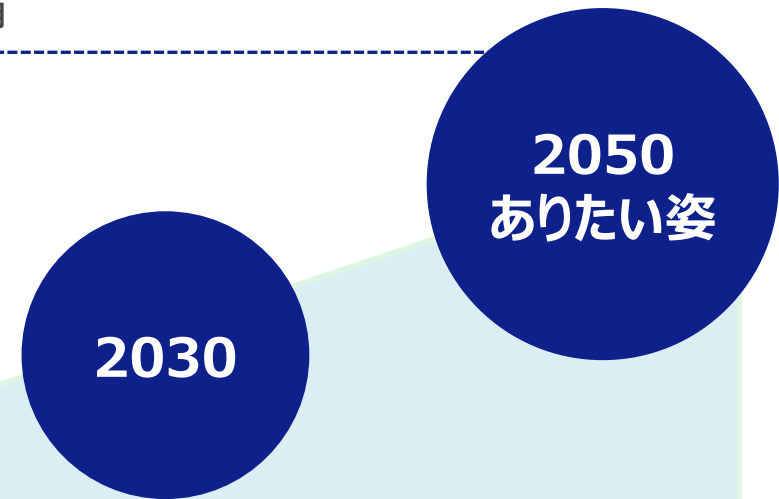
- バックカスティングで目標設定
- 排出の99.5%を占めるスコープ2排出削減が重要削減を推進

- 太陽光設備の導入
- 再エネ調達証書購入 他

2/3  
再エネ調達  
(エネルギー調達改善)

1/3  
省エネ推進  
(エネルギー原単位改善)

- エネルギーの可視化
- 省エネ設備の導入・更新
- 省エネ診断の活用 他



温室効果ガス削減目標  
(2021年5月設定)  
2030年に2013年\*対比  
51%以上削減



# 人材戦略

- ◆ グローバルの働きがい改革と日本における中核人材の多様性確保により「人が憧れる会社」「人が集まる会社」を目指す

## 働きがい改革（グローバル）

- PDCAを回すことで施策を見直し、従業員満足度の向上につなげる

人権・安全教育  
の充実

心理的安全性プ  
ログラムの展開

都度必要プログ  
ラム見直し



エンゲージメント調査による満足度改善

グローバルの改善：3pt/年

## 人材多様性確保（日本国内）

- グローバルなステークホルダーの期待に応えられる多様性を確保し「2050ありたい姿」の実現を目指す
- 第13次中期経営計画の3年は、相対的に多様性の低い日本国内の改善を優先する



中核人材(管理職)中の比率（'25年3月期）

女性: 10%

外国人: 5%

中途採用:  
50%

## 4. まとめ

# まとめ

## 第12次中期経営計画振り返り・2022年3月期 実績

- コロナ等によるサプライチェーン分断・素材価格高騰の影響を大きく受け、売上高は伸びるも、中期経営計画および期初計画の利益は大幅に未達
- ただし、堅調な需要・受注残を背景に、業績は第4四半期から回復傾向へ

## 2023年3月期計画

- 素材価格高騰、部品調達困難、為替変動等により不透明な事業環境を想定するが、エレクトロニクス市場の堅調な需要は継続
- 収益改善施策を織り込み、業績のV字回復を目指す

## 第13次中期経営計画

- 事業戦略とサステナビリティ戦略を統合し、創業100周年とその先の力強い未来を創る変革を推進する
- 事業戦略ではカーボンニュートラルへの貢献を通じた事業成長と事業収益・資産効率向上を目指す
- サステナビリティ戦略はマテリアリティを軸に設定したKPIと目標の実現に向けて施策を展開

# 【付録】 参考資料

# 会社概要

売上高 : 2022年3月期実績  
従業員数 : 2022年3月末現在

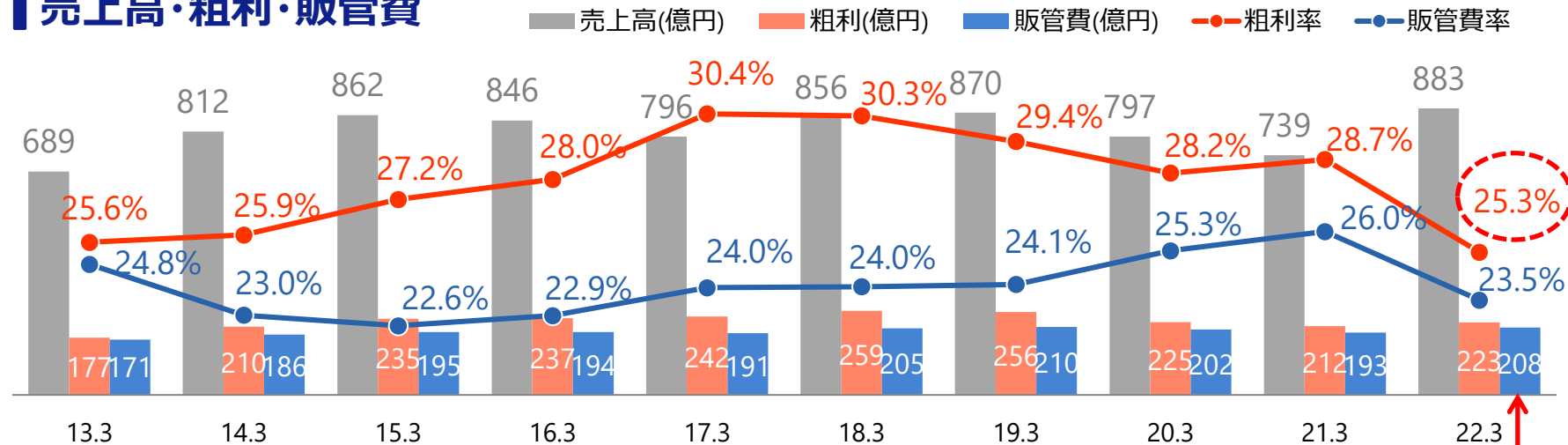
資本金 : 11,829百万円  
 連結従業員数 : 4,405名  
 連結売上高 : 88,328百万円  
 東証プライム上場  
 代表取締役社長 : 浅田昌弘





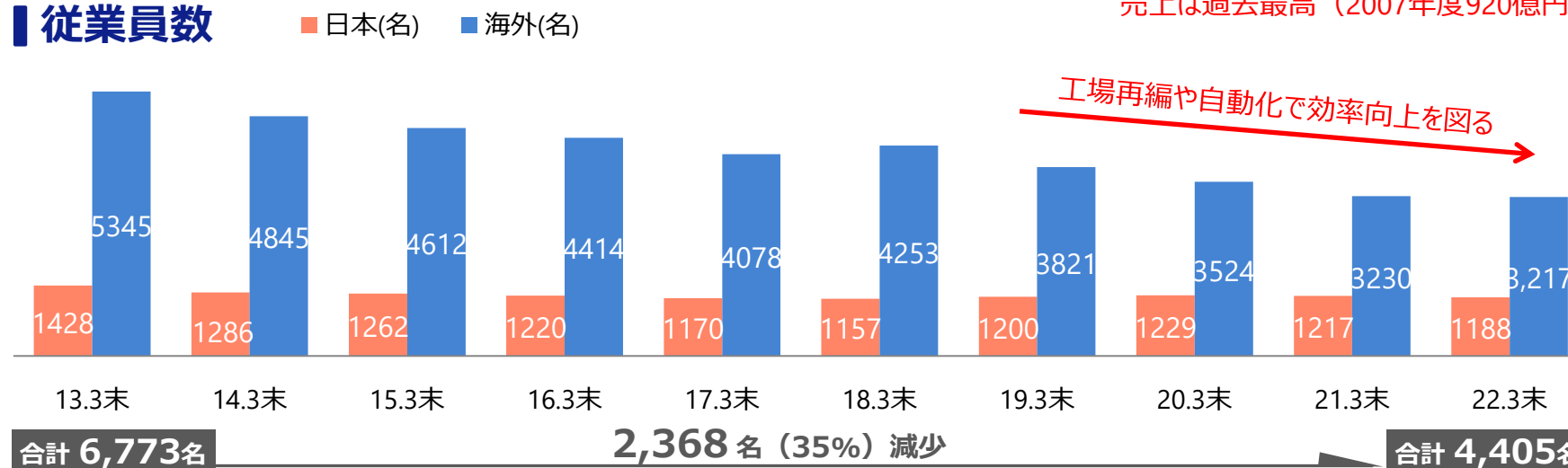
# 売上高・粗利・販管費・従業員数の推移

## 売上高・粗利・販管費



素材価格高騰により粗利率低下  
売上は過去最高（2007年度920億円）に迫る

## 従業員数

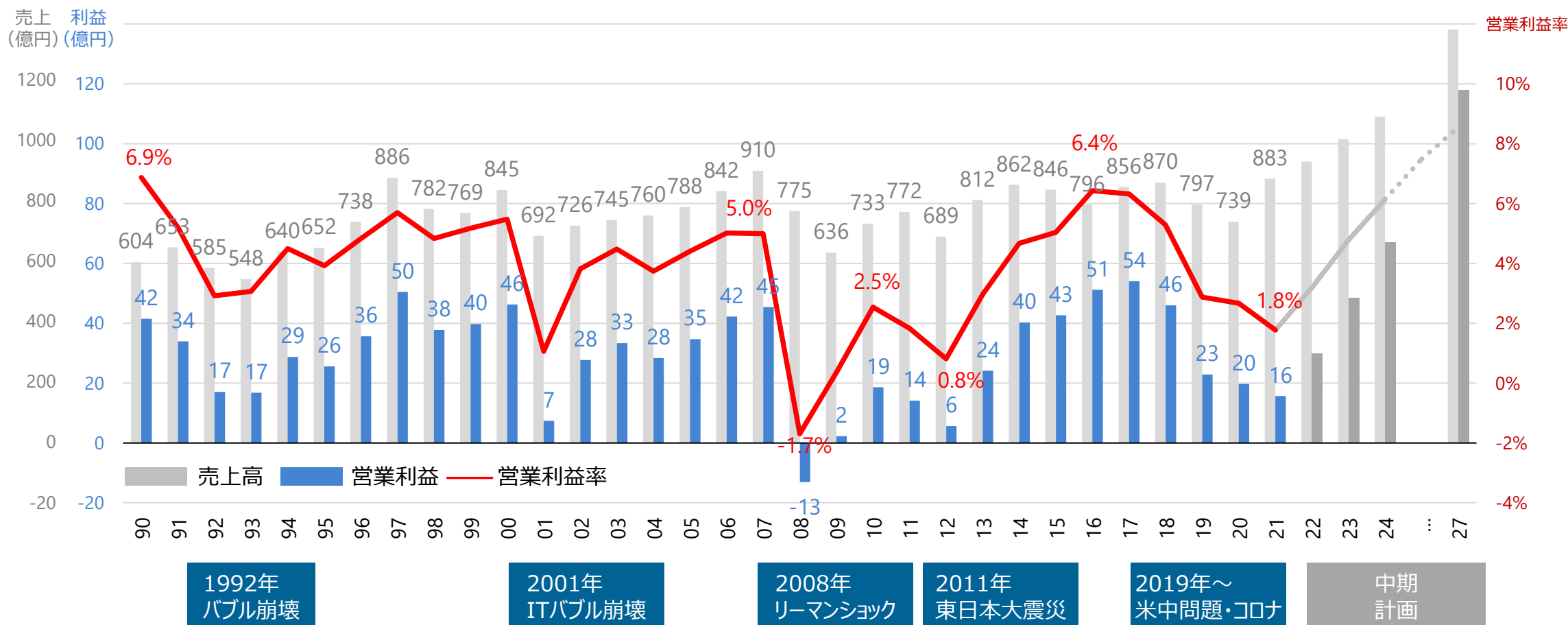




# 全社：売上高・営業利益の推移



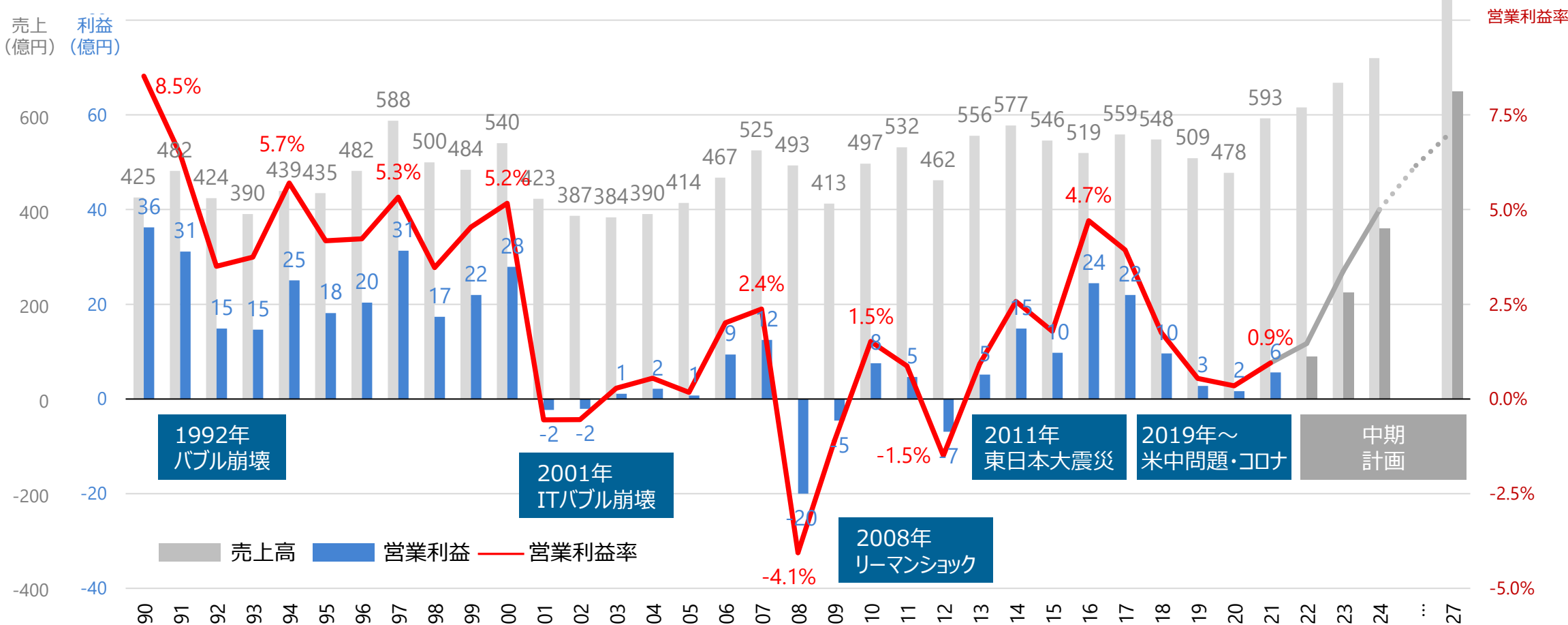
1990年以降、バブル崩壊、ITバブル崩壊、リーマンショック、東日本大震災、新型コロナなど、度重なる向かい風を受けながらも回復してきました。2022年度より新たにスタートする第13次中期経営計画では、足元を乗り切るだけでなく、未来のニーズを先取りして、100周年とその先の持続的な成長に向けて取り組みを進めます。



# 電子部品：売上高・営業利益の推移



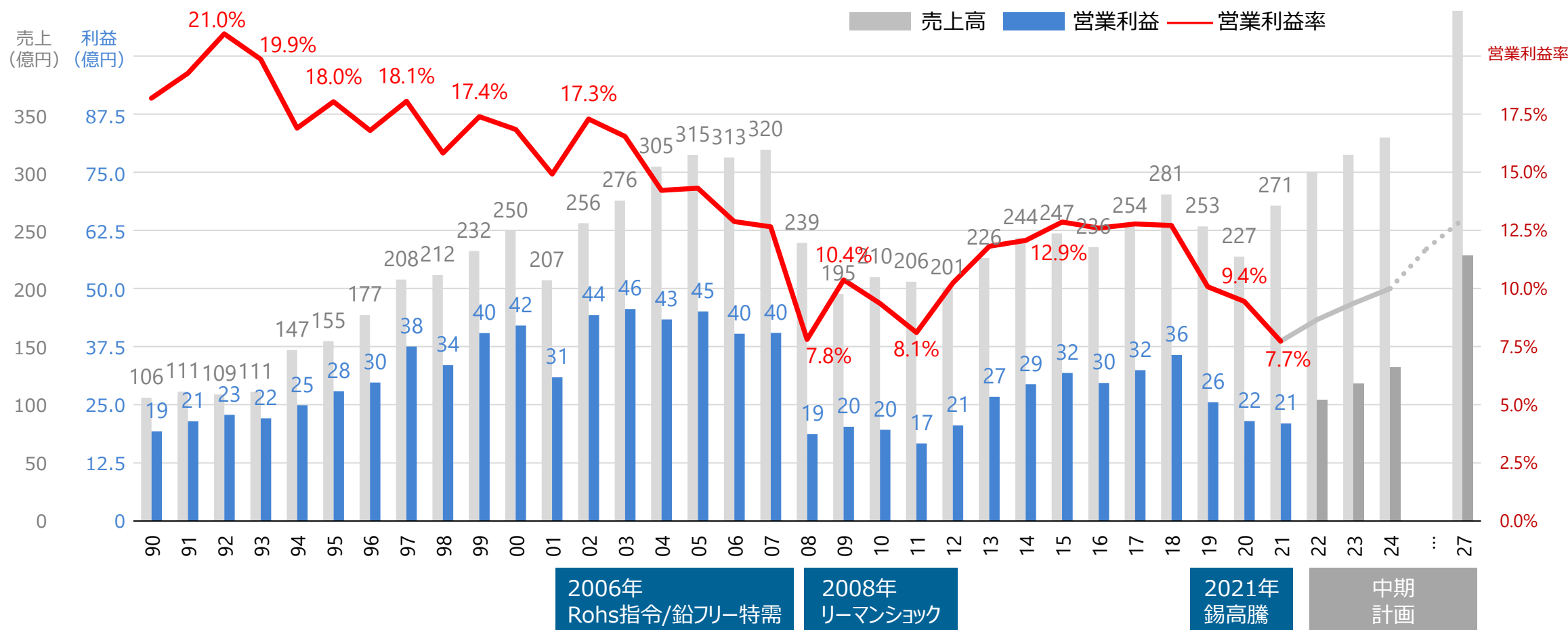
2001年ITバブル崩壊以降、収益性を重視した製品・市場の見直しを進めています。2021年度の売上高はセグメント情報開示来の最高となりました。カーボンニュートラルを追い風に、パワーエレクトロニクスで更なる売上・利益の拡大を目指します。



# 電子化学実装：売上高・営業利益の推移



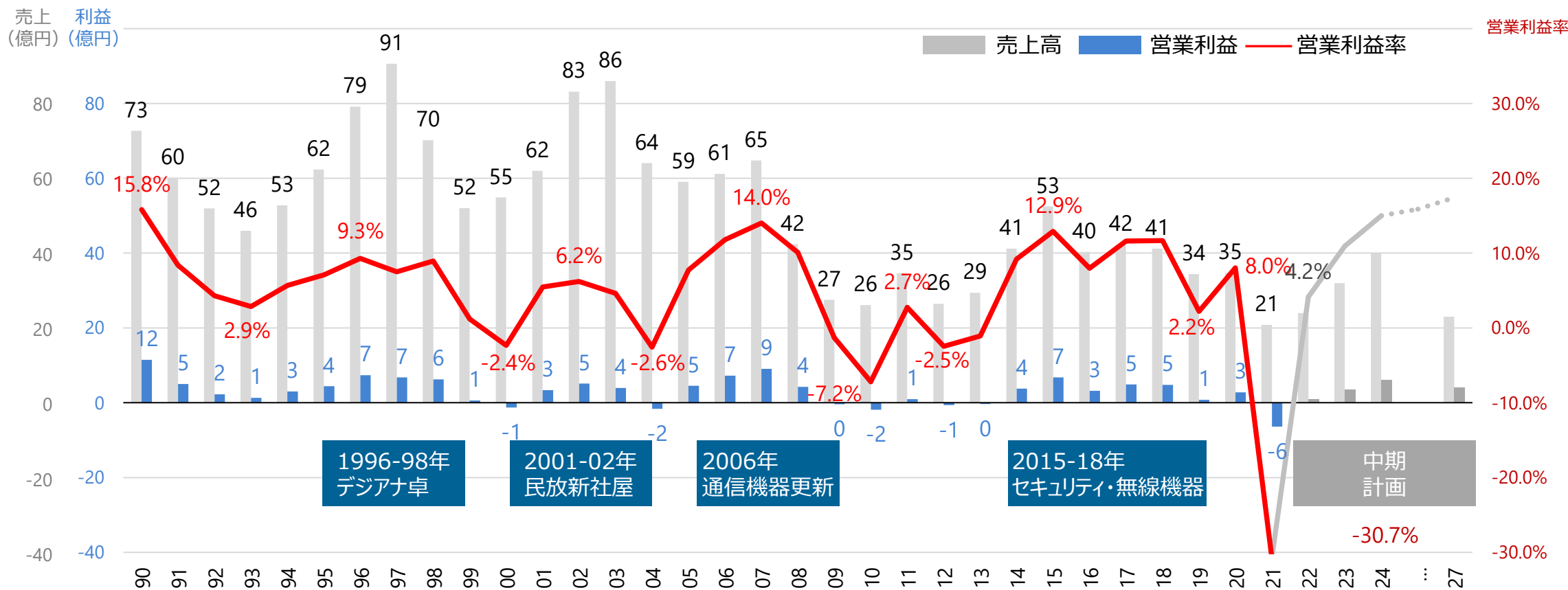
電子化学事業は景気変動に関わらず安定的な利益を確保してきました。2006年前後は、RoHS指令施行に先駆けて開発した鉛フリーはんだ付装置が売上を牽引。今後もエレクトロニクス市場の成長を、素材と環境対応力で支えていきます。



# 情報機器：売上高・営業利益の推移



放送機器・無線機器・通信機器・セキュリティ機器のバランスで収益の安定を図っています。過去より顧客の需要の端境期は厳しい状況ですが、2024年に向けて放送機器の更新需要による伸長を見込んでいます。



# あなたの街のタムラ

コーポレーションレポート2021より

<https://www.tamura-ss.co.jp/>



**航空・宇宙で**  
航空機からロケット・人工衛星まで、究極の耐環境性で社会に貢献しています。



トランス・リアクタ

**灯台で**

超高輝度で、高い直進性が求められる灯台の光源を省エネルギー化、長寿命化し、メンテナンス性を向上します。



パワーLED

**駅で**

発着案内などの情報伝達手段として、音声・表示で鉄道運行を支えます。

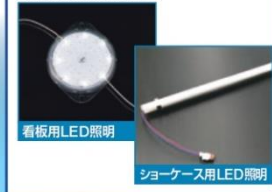


LED式電光掲示板

駅用ワイヤレスマイクホン

**コンビニや店舗で**

店舗サインやショーケースなど、省エネに貢献するLED光源です。



看板用LED照明

ショーケース用LED照明

**通信基地局で**

通信基地局用の基板に欠かせない材料として、デジタル通信システムを支えています。



ソルダーレジスト

ソルダーペースト

**放送局で**

視聴者に届ける音声を調整する機器と、局内連絡用の無線システムです。



DECT規格インターカム

ポータブルミキサー

**街の自動販売機で**

表示や商品選択だけでなく、スマートフォンとの連動など最新機能を実現します。



商品選択ボタン

金額表示器

**エコカーで**

高信頼・高効率な部品・材料で、エコドライブや安心・安全を支えます。



車載用リアクタ・コイル

糸はんだ・棒はんだ

ソルダーレジスト

ソルダーペースト

**風力・太陽光発電・インフラで**

再生可能エネルギーの発電や直流送電の効率向上などに寄与する部品・材料です。



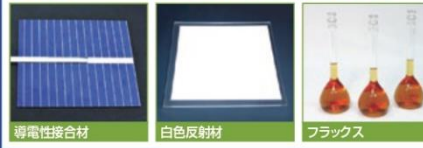
大型トランス・リアクタ



電流センサ

ゲートドライバモジュール

電源モジュール



導電性接合材

白色反射材

フラックス

**工場で**

ロボットや工作機械の部品、プリント配線板実装に欠かせない装置が活躍しています。



電流センサ

ゲートドライバモジュール



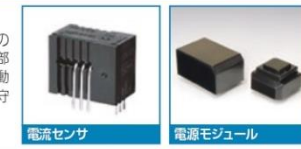
電源モジュール

トランス・リアクタ

はんだ付装置

**家庭で**

エアコンやパソコンの省エネに寄与する部品、居室内での活動状況や快適性を見守るセンサです。



電流センサ

電源モジュール



リアクタ

人感センサ

環境可視化センサ

**スマートフォンやタブレットPCで**

多機能化・小型化する機器の進化を支える材料です。



PAF  
フレキシブル基板向け  
ソルダーレジスト

低アルファ線  
ソルダーペースト



(0201サイズ部品を適合)  
Type 6ソルダーペースト

黒色吸収材

写真顕像型カーバレイ  
コート(フィルム・液状)

## 弊社からのお願い

本資料の業績予想、見通し及び事業計画については、現時点における将来環境予測等の仮定に基づいております。  
本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

株式会社タムラ製作所 広報・IRグループ  
TEL : 03-3978-2111